Canon

キヤノン株式会社
キヤノン販売株式会社
〒108-8011 東京都港区三田3-12-15 東急三田ビル

製品取り扱い方法に関するご相談窓口

お問い合わせ

キヤノン販売お客様相談センター（全国共通番号）　0570−01−9000

受付時間：平日 9：00～12：00　13：00～18：00　19：00～21：00
土・日・祝日 10：00～12：00　13：00～17：00
（1月1日～1月3日を除く）

お電話がつながりましたら音声ガイダンスに従ってデジタルカメラの該当番号〈71〉をお話しください。音声認識後、商品担当者におつなぎします。

全国64ヶ所にある最寄りのアクセスポイントまでの通話料金でご利用になれます。なお、携帯電話・PHSをご使用の方は 043−211−9556 をご利用ください。

※ 音声応答システム・受付時間・該当番号は予告なく変更する場合があります。あらかじめご了承ください。

※ 電話の回線状態等によっては、正しく音声認識できない場合があります。
その場合でもオペレーターにおつなぎいたしますので、そのまま電話を切らずにお待ちください。

※ 消耗品はお買い上げいただいた販売店、お近くのキヤノン製品取り扱い店およびキヤノン販売（株）販売窓口にてご購入ください。 なお、ご不明な場合はお客様相談センターにご相談ください。

修理サービスご相談窓口

同梱の「修理サービスご相談窓口」（別紙）でご確認ください。

キヤノンデジタルカメラホームページのご案内

キヤノンデジタルカメラのホームページを開設しています。最新の情報が掲載されていますので、インターネットをご利用の方は、ぜひお立ち寄りください。

キヤノン株式会社
http://www.canon.co.jp/Imaging/

キヤノン販売株式会社　デジタルカメラ製品情報
http://www.canon-sales.co.jp/camera/digital/

キヤノン販売株式会社　サービス＆サポート
http://www.canon-sales.co.jp/e-support/index-j.html

Canon Image Gateway
http://www.imagegateway.net/

CDI-J045-010　　XX02NiX　　PRINTED IN JAPAN

Canon　キヤノンデジタルカメラ　IXY DIGITAL 200a　カメラユーザーガイド

Canon

CDI-J045

キヤノンデジタルカメラ

IXY DIGITAL 200a
カメラユーザーガイド

- 最初にP.7の「ご使用の前に」をお読みください。
- すぐにカメラをお使いになりたいときは、P.14の「クイックスタート」をお読みください。撮影、再生、消去の操作方法を簡単に説明しています。
- ソフトウェアのインストールと画像の取り込み方法については、ソフトウェアクイックガイドをお読みください。
- 各プリンターに同梱されているプリンターユーザーガイドもお読みください。

このカメラでできること

撮影	シャッターを押すだけで簡単に撮影できます。静止画のほか、動画も撮影できます。また、露出補正、ホワイトバランス、色効果なども用途にあわせて変更できます。 SIセンサーを搭載しており、撮影した画像の縦横位置も自動的に判別します。
再生	撮った画像をその場ですぐに確認でき、必要なければすぐに削除できます。また、スライドショー機能（DPOF準拠）で、画像を自動的に再生できます。
プリント	カメラダイレクト対応プリンター（別売）やカメラダイレクト対応のBJプリンタ（別売）に接続し、手軽に高画質なプリントを得られます。
コンピューターへの取り込み	同梱のソフトウェアで画像を取り込み、画像を編集、加工できます。さらにインターネットを通じて、オリジナルアルバムを作成し、友人や家族に公開できます。

アクセサリーについて

本デジタルカメラは、キヤノン純正のデジタルカメラ用アクセサリーと組み合わせて使用した場合に最適な性能を発揮するように設計されておりますので、キヤノン純正アクセサリーのご使用をおすすめいたします。他社製のアクセサリーを組み合わせてお使いになられたことが原因で生じた事故や故障については、弊社では保証いたしかねますので、あらかじめご了承ください。

リチウムイオン電池のリサイクルにご協力ください。

日付/時刻用バッテリーの充電について

- カメラには、日付/時刻などの設定を保持するための充電型リチウム電池が内蔵されており、バッテリーを入れたときに充電されます。ご購入時に4時間程度、カメラにバッテリーを入れておくか、またはACアダプターキット ACK500（別売）を使用し充電してください。電源が入っていなくても充電できます。
- 電源を入れたときに、日付/時刻設定画面が表示された場合は、内蔵の充電型リチウム電池の容量がなくなっています。上記の方法で充電してください。

ガイドの使いかた

以下のガイドが用意されています。用途に合わせてお使いください。

カメラユーザーガイド（本書）

・撮影、再生、消去の操作方法
・コンピューターとの接続方法
・カメラダイレクト対応プリンターとの接続方法、およびプリント方法

システムマップ

・周辺機器との接続　　・同梱品・別売品の紹介

ソフトウェアクイックガイド

・同梱のCD-ROMに納められている各ソフトウェアの主な機能
・コンピューターに必要なシステム構成
・ソフトウェアのインストール方法
・カメラで撮影した画像をコンピューターに取り込む方法

ZoomBrowser EX ソフトウェアガイド（Windows）/ ImageBrowser ソフトウェアガイド（Macintosh）

・ZoomBrowser EX（Windows）の詳細な使いかた
・ImageBrowser（Macintosh）の詳細な使いかた

カードフォトプリンターCP-100/CP-10 プリンタードライバ ユーザーガイド（Windows/Macintosh）

・プリンタードライバのインストール方法
・コンピューターとの接続方法、およびプリント方法

プリンターユーザーガイド（別売のプリンターに同梱）

・プリンターとカメラの接続方法
・ペーパーやインクカセットの入れかた
・プリンターやペーパー、インクカセットの取り扱い上のご注意

修理サービスご相談窓口

・修理に関するお問い合わせ先

このガイドについて

このガイドの表記について

見出しの横にあるマークは、この操作が行えるモードを表しています。下の例では、撮影モードが、、、、またはのときに操作できます。

セルフタイマーを使って撮る

白いボタンは、その手順で押すボタンを表しています。
右の例では、MENUボタンを押します。

：カメラを正しく動作させるための注意や制限を記載しています。

：カメラを使用するにあたって知っておくと便利なことがら、参考になることがらを記載しています。

こんなときには

●メニュー操作のしかたがわからない

メニューの選択と設定のしかた（p.39）

●撮影モードごとに設定できる機能がよくわからない

●電源を切ると、設定の変更が保持されるのかわからない

各撮影モードで設定できる機能一覧（p.76）

●プリントのしかたがわからない

プリントについて （p.92）

●利用できる機能にどんなものがあるかわからない

撮影メニュー （p.120）
再生メニュー （p.123）
設定メニュー （p.125）

目次

は、このカメラの機能や操作をまとめてあります。

撮影

再生

消去

プリント

画像の送信指定（DPOF送信指定）

テレビを使って撮影/再生する

コンピューターへの画像の取り込み

メニュー・メッセージ一覧

付録

主な仕様

索引

ご使用の前に

必ずお読みください

ためし撮り

必ず事前にためし撮りをし、画像が正常に記録されていることを確認してください。

万一、このカメラやCFカードなどの不具合により、画像の記録やコンピューターへの取り込みがされなかった場合、記録内容の補償についてはご容赦ください。

著作権について

あなたがこのカメラで記録した画像は、個人として楽しむなどのほかは、著作権法上、権利者に無断で使用できません。なお、実演や興業、展示物などのうちには、個人として楽しむなどの目的であっても、撮影を制限している場合がありますのでご注意ください。

保証について

このカメラの保証書は国内に限り有効です。万一、海外旅行先で、故障・不具合が生じた場合は、持ち帰ったあと、国内の「お客様ご相談窓口」にご相談ください。

ご注意

本体温度について

このカメラは、電源を入れたあと長時間お使いになっていると、本体温度が高くなることがあります。これは故障ではありませんが、長時間皮膚が触れたままになっていると、低温やけどの原因となることがありますので、ご注意ください。

液晶モニターについて

液晶モニターは、非常に精密度の高い技術で作られており99.99%以上の有効画素がありますが、0.01%以下の画素欠けや、黒や赤の点が現れたままになることがあります。これは故障ではありません。また、記録される画像には影響ありません。

安全上のご注意

- ご使用前にこの「安全上のご注意」をよくお読みのうえ、正しくお使いください。
- ここに示した注意事項は、製品を安全に正しくお使いいただき、あなたや他の人々への危害や損害を未然に防止するためのものです。内容をよく理解してから本文をお読みください。
- 本文中の「本機器」とは、カメラ、バッテリーチャージャーおよび別売のコンパクトパワーアダプターやカーバッテリーチャージャーを指します。

 警告　この警告事項に反した取り扱いをすると、人が死亡または重傷を負う可能性があることを示します。

 注意　この注意事項に反した取り扱いをすると、人が傷害または物的損害を負う可能性があることを示します。

 △記号は、取り扱いを誤ると、事故につながる可能性があることを示します。記号の中の図は注意事項を意味します。

 ⃠記号は、禁止の行為を示します。記号の中の図は禁止事項を意味します。（左図:分解禁止）

 ●記号は、必ず守っていただきたいことがらを示します。記号の中の図は指示内容を意味します（左図:電源プラグを抜く）

⚠ 警　告

- **カメラで太陽や強い光源を直接見ないようにしてください。** 視力障害の原因となります。

- **ストロボを人の目に近づけて発光しないでください。** 目の近くでストロボを発光すると、視力障害を起こす可能性があります。特に、乳幼児を撮影するときは1m以上離れてください。

- **本機器はお子様の手の届かないところに保管してください。** お子様が誤って本機器やバッテリーを破損すると危険です。また、誤ってリストストラップ を首に巻き付けると、窒息することがあります。

- **本機器を分解、改造しないでください。** 高電圧がかかり、感電する原因となることがあります。内部の点検、調整、修理はお買い上げになった販売店またはキヤノンサービスセンターにご依頼ください。

- **落下などにより、ストロボ部分が破損した際は、内部には触れないでください。** さらに、内部が露出した際は、絶対に手を触れないでください。 高電圧がかかり、感電する原因となります。速やかに、お買い上げになった販売店またはキヤノンサービスセンターにご連絡ください。

- **煙が出ている、焦げ臭いなどの異常状態のまま使用しないでください。** 火災、感電の原因となります。すぐに機器本体の電源を切り、その後必ず、バッテリーを外すか、電源ケーブルの差し込みプラグをコンセントから抜き、煙が出なくなるのを確認して、お買い上げになった販売店またはキヤノンサービスセンターにご連絡ください。

- **本機器を落としたり外装を破損した場合は、まず、カメラの電源を切り、バッテリーを外すか、電源ケーブルの差し込みプラグをコンセントから抜いてください。** そのまま使用すると火災、感電の原因となります。お買い上げになった販売店またはキヤノンサービスセンターにご連絡ください。

- **本機器内部に水などを入れたり、濡らしたりしないでください。** カメラには防水処理が施されていません。水滴がかかったり、潮風にさらされたときには、吸水性のある柔らかい布で拭いてください。万一、内部に水や異物などが入った場合は、まず、カメラの電源を切り、バッテリーを外すか、電源ケーブルの差し込みプラグをコンセントから抜いてください。そのまま使用すると火災、感電の原因となります。お買い上げになった販売店またはキヤノンサービスセンターにご連絡ください。

- **お手入れのときは、アルコール、ベンジン、シンナーなどの引火性溶剤は使用しないでください。** 火災の原因となります。

- **電源プラグを定期的に抜き、その周辺およびコンセントにたまったほこりや汚れを乾いた布で拭き取ってください。** ほこり、湿気、油煙の多いところで電源プラグを長時間差したままにすると、その周辺に溜まったほこりが湿気をすって絶縁不良となり、火災の原因になります。

- **電源ケーブルに重いものを載せたり、傷つけたり、破損したり、加工しないでください。** 漏電して、火災、感電の原因になります。

- **濡れた手で電源プラグを抜き差ししないでください。** 感電の原因になります。
また、電源プラグを抜くときは、必ずプラグを持って抜いてください。電源ケーブルを引っ張ると、芯線の露出、断線などでケーブルが傷つき、火災、感電の原因となります。

- **本機器専用以外の電源は使用しないでください。** 発熱、変形して、火災、感電の原因になります。

- **バッテリーを火に近づけたり、火の中に投げ込まないでください。** また、水の中に入れたりしないでください。バッテリーの破裂、液漏れにより、火災、けがの原因になります。

- **バッテリーを分解、改造したり、加熱しないでください。** 破裂により、けがの原因となります。万一、バッテリーの電解液が漏れ、衣服、皮膚、目、口に付いたときは、ただちに洗い流してください。

- **バッテリーを落とすなどして強い衝撃を与えないでください。** 外装が破損した場合、バッテリーの液漏れにより、けがの原因になります。

- **キーホルダーなどの金属類でバッテリーの「⊕」と「⊖」の端子を接触（ショート）させないでください。** 発熱し、やけど、けがの原因となります。持ち運びや保存の際は、必ず端子カバーを取り付けるか、専用のバッテリーケースに入れてください。

- **バッテリーを廃却する場合は、接点部にテープを貼るなどして絶縁してください。** 廃却の際、他の金属と混じると、発火、破裂の原因となります。

- **指定されたバッテリーを使用してください。** それ以外のものを使用すると、バッテリーの破裂、液漏れにより、火災、けがや周囲を汚す原因となることがあります。

- **バッテリーパック NB-1LH、NB-1Lを充電する場合は、指定されたバッテリーチャージャーを使用してください。** それ以外のものを使用すると、発熱、変形して、火災、感電の原因になります。

- **バッテリーチャージャー、コンパクトパワーアダプターは、充電終了後および使用しないときは、カメラと電源コンセントの両方から外してください。** 長時間接続しておくと、発熱、変形して火災の原因となります。

- **バッテリーチャージャー、コンパクトパワーアダプターの出力端子は、このカメラ専用です。** 他のバッテリーや製品にはお使いにならないでください。火災の原因となることがあります。

⚠ 注 意

- **直射日光のあたる場所、および車のトランクやダッシュボードなどの高温になるところで使用・保管しないでください。**バッテリーの液漏れ、発熱、破裂により、火災、やけど、けがの原因となることがあります。また、機器外装が熱により変形することがあります。また、バッテリーチャージャーで充電する際は、風通しのよいところでお使いください。

- **湿気やほこりの多い場所に保管しないでください。**火災、感電、故障の原因になることがあります。

- **カメラをリストストラップで下げているときは、他のものに引っ掛かったり、強い衝撃や振動を与えないように注意してください。**けがや本体の故障の原因となることがあります。

- **ストロボの発光部分を手で覆ったまま発光しないでください。**また、連続発光後、発光部分に触らないでください。やけどの原因になることがあります。

故障を防ぐためのご注意

■電磁波による誤作動、破壊を防ぐために

カメラをモーターや強力な磁場を発生させる装置の近くに、絶対に置かないでください。電磁波により、カメラが誤作動したり、記録した画像のデータが破壊されることがあります。

■結露を防ぐために

カメラを寒い場所から急に暑い場所に移すと、カメラの外部や内部に結露(水滴) が発生することがあります。

カメラを寒い場所から暑い場所に移すときは、結露の発生を防ぐために、カメラをビニール袋に入れ、周囲の気温になじませてから、袋から取り出してください。

■結露が発生したときは

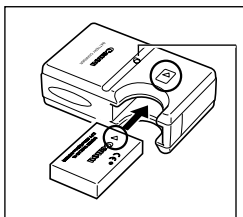
故障の原因になりますので、カメラをお使いにならないでください。

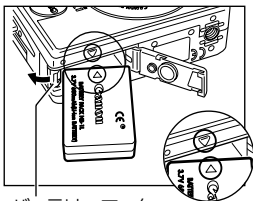
CFカード、バッテリー、コンパクトパワーアダプターをカメラから取り外し、水滴が消えるまで待ってから、カメラをお使いください。

■カメラを使用しないときは

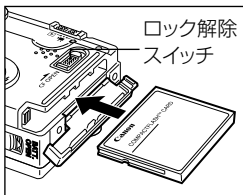
バッテリーをカメラから取り出して、安全な場所に保存しておいてください。バッテリーを入れたままにしておくと、バッテリーが消耗します。

ただし、バッテリーを取り出してから約3週間経過すると、設定した日付/時刻やカメラの設定が解除される場合があります。

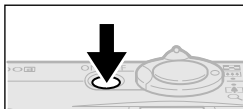
クイックスタート

❶ バッテリーを充電する（p.20）

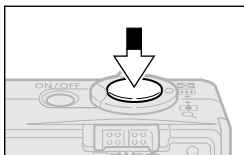
バッテリーをバッテリーチャージャーにセットし、コンセントに差し込みます。充電中はチャージインジケーターが赤色に点灯し、充電が完了すると緑色に点灯します。

❷ バッテリーを入れる（p.22）

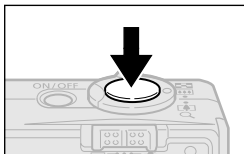
バッテリーカバーをスライドしてバッテリーカバーを開き、バッテリーロックを押しながら、バッテリーを入れます。

バッテリーは、バッテリーの矢印とカメラ底面の矢印を合わせて正しく入れてください。

❸ CFカードを入れる（p.24）

ロック解除スイッチをスライドしてCFカードスロットカバーを開き、CFカードを差し込みます。

❹ モードスイッチを（撮影）にする
（p.30）

❺ 電源を入れる（p.28）

ボタン中央のパワーランプが点灯するまで、メインスイッチを押します。

❻ ピントを合わせる（p.36）

写したいもの（被写体）にカメラを向け、シャッターボタンを軽く押します（半押し）。撮影準備が完了すると電子音が2回鳴ります。

❼ 撮影する（p.36）

シャッターボタンをさらに深く押します（全押し）。撮影が終了すると電子音が1回鳴ります。

❽ 撮影した画像を見る（p.46）

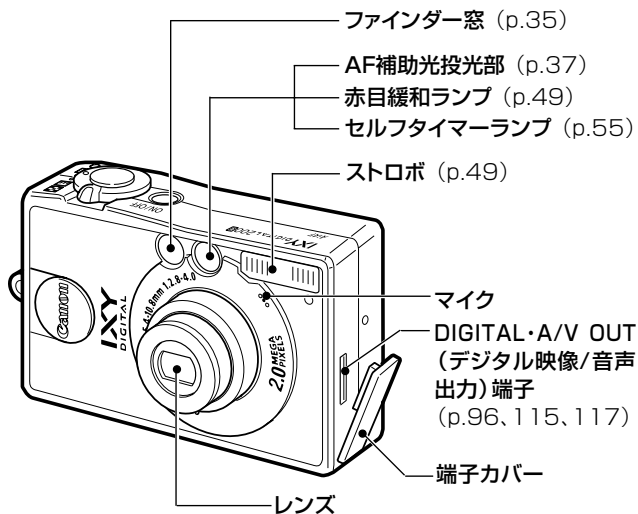
撮影した画像が約2秒間、表示されます。シャッターボタンを押し続けるか、シャッターボタンを押しながら**SET**ボタンを押すと、シャッターボタンを離しても撮影画像を表示し続けます。

表示画像をすぐに消去する

1. 画像の表示中に🗑ボタンを押します。
2. ［消去］が選択されていることを確認し、**SET**ボタンを押します。

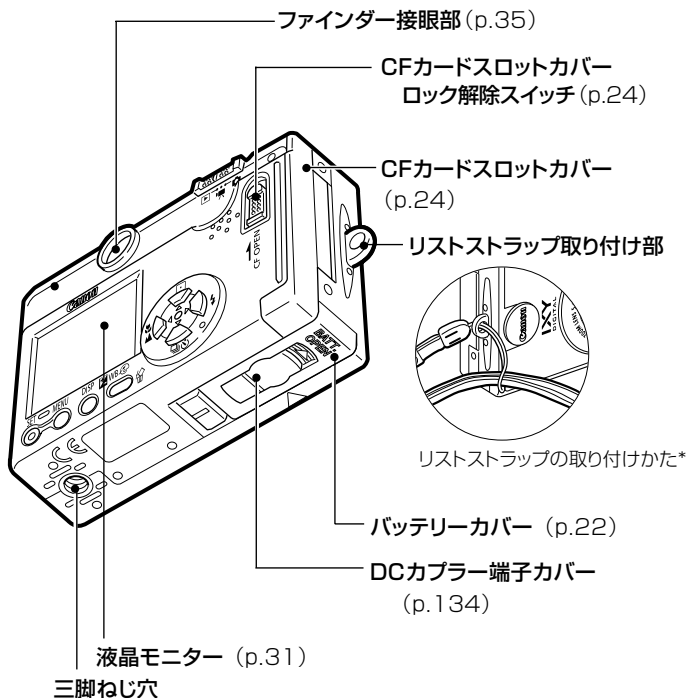
- 電源を入れたとき、日付/時刻の設定画面が表示された場合は、日付/時刻を設定してください。（p.26）
- メニューの表示言語を変更できます。（p.27）
- 今までに撮影した画像を確認したい場合は、「再生」を参照してください。（p.78）
- 使い終わった後は、メインスイッチを押して電源を切ります。

各部の名称

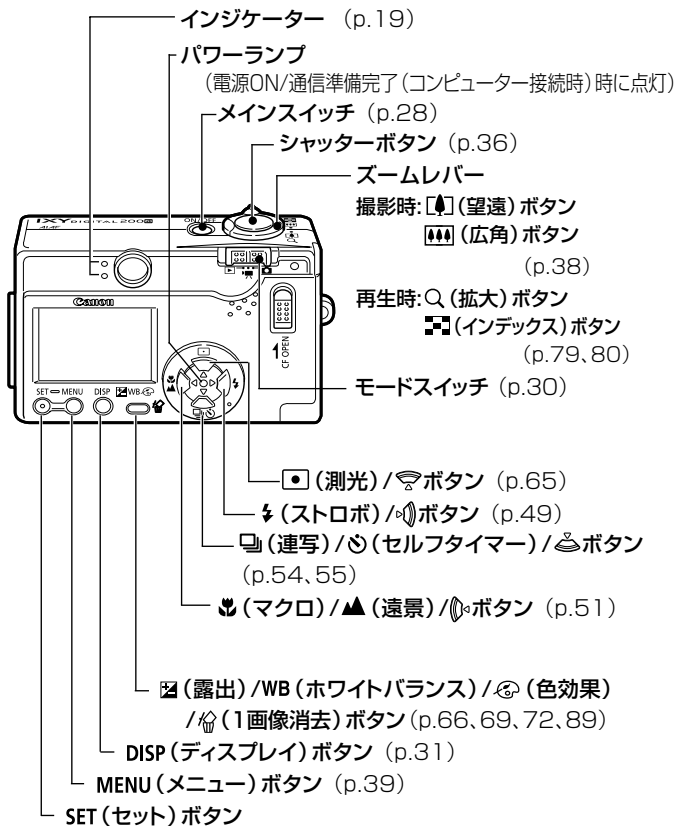
前面

＊カメラにコンピューター、またはプリンターを接続するときに使用するケーブルは、以下のとおりです。

・**コンピューター** （p.117）
　USBインターフェースケーブル IFC-200PCU（カメラに同梱）
・**カメラダイレクト対応プリンター（別売）** （p.96）
　ダイレクトインターフェースケーブル DIF-200
　（カメラダイレクト対応プリンターに同梱）
・**カメラダイレクト対応BJプリンタ（別売）** （p.97）
　BJプリンタの使用説明書でご確認ください。

このカメラで使えるカメラダイレクト対応プリンターについてはシステムマップでご確認ください。

背面

* リストストラップを下げているときは、カメラを振り回すような持ち方を避け、他のものに引っ掛からないように注意してください。

操作部

インジケーター（p.19）
パワーランプ
（電源ON/通信準備完了（コンピューター接続時）時に点灯）
メインスイッチ（p.28）
シャッターボタン（p.36）
ズームレバー
撮影時：（望遠）ボタン
（広角）ボタン
（p.38）
再生時：（拡大）ボタン
（インデックス）ボタン
（p.79、80）
モードスイッチ（p.30）
（測光）/ボタン（p.65）
（ストロボ）/ボタン（p.49）
（連写）/（セルフタイマー）/ボタン
（p.54、55）
（マクロ）/（遠景）/ボタン（p.51）
（露出）/WB（ホワイトバランス）/（色効果）
/（1画像消去）ボタン（p.66、69、72、89）
DISP（ディスプレイ）ボタン（p.31）
MENU（メニュー）ボタン（p.39）
SET（セット）ボタン
ON/OFF
Canon
SET
MENU
DISP
WB
CF OPEN

インジケーター

メインスイッチまたはシャッターボタンを押したとき、インジケーターが点灯、点滅します。

●上側のインジケーター

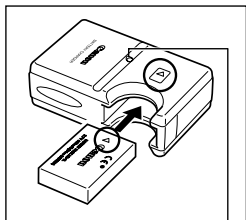
緑点灯 :撮影準備完了/通信準備完了（コンピューター接続時）
緑点滅 :カメラ起動中/CFカードへ記録中/
CFカードからの読み出し中/CFカードからの消去中/
データ転送中（コンピューター接続時）
橙点灯 :撮影準備完了（ストロボ発光）
橙点滅 :撮影準備完了（手ぶれ警告）

●下側のインジケーター

黄点灯 :マクロ撮影/遠景撮影/フォーカスロック時（p.60 方法2）
黄点滅 :ピントが合いにくいとき（電子音が1回鳴ります。）
（黄点滅したときでもシャッターは押せますが、フォーカスロックで撮影することをおすすめします。）（p.60）

準備

バッテリーを充電する

はじめてお使いになるときや、「バッテリーを交換してください」というメッセージが表示されたときは、次の方法でバッテリーを充電してください。

チャージインジケーター

- バッテリーを図のように、バッテリーチャージャーの奥までしっかり押し込み、コンセントに差し込みます。
- バッテリーはバッテリーの矢印と、バッテリーチャージャーの矢印を合わせ、正しく入れてください。
- 充電中はチャージインジケーターが赤色に点灯し、充電が完了すると緑色に点灯します。
- 充電終了後、バッテリーチャージャーをコンセントから抜き、バッテリーを取り出します。

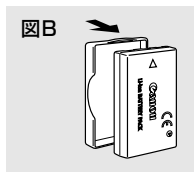
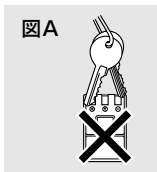
バッテリーを保護し、性能の劣化を防ぐため、24時間以上連続して充電しないでください。

- リチウムイオン電池のため、充電する前に使い切ったり、放電する必要はありません。いつでも充電できます。
- 完全に放電した状態からフル充電になるまでの時間は、約130分です（当社測定基準による）。5－40℃の範囲で充電してください。
- 充電時間は、周囲の温度や充電状態によって異なります。
- バッテリー性能について （p.143）

取り扱いについて

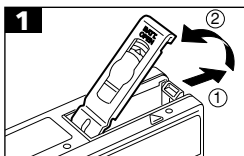
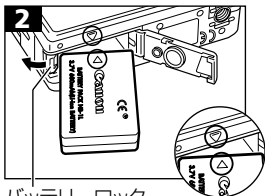
- バッテリーの⊕Ⓣ⊖の端子は、常にきれいにしておいてください。汚れていると、接触不良の原因となります。充電や使用する前に、ティッシュペーパーなどで乾拭きしてください。
- バッテリーチャージャーに、バッテリーを装着した状態で、急激に逆さにしたり、強く振ったりしないでください。バッテリーが飛び出して危険です。
- 低温下では、電池の性能が低下したり、バッテリーアイコンが早めに表示されることがあります。このようなときは、使用直前までポケットなどに入れて温めてから使用すると、電池の性能が回復することがあります。ただし、このとき、ポケットにキーホルダーなどの金属類は入れないでください。電池がショートするおそれがあります。
- テーブルクロス、じゅうたん、布団、クッションなどをかけたまま充電しないでください。内部に熱がこもり火災の原因となることがあります。
- バッテリーパック NB-1LH/NB-1L以外のバッテリーは充電しないでください。
- バッテリーをカメラやバッテリーチャージャーに取り付けたままにしておくと、お使いにならなくても微少の電流が流れて過放電になり、寿命短縮の原因になります。
- キーホルダーなどの金属でバッテリーの「⊕」と「⊖」の端子を接触させると（図A）、バッテリーパックの破損の原因となることがあります。バッテリーを持ち運ぶときや、お使いにならないときは、必ず端子カバーを取り付ける（図B）か、専用ケースに入れて乾燥した冷暗所に保管してください。再びお使いになるときには、必ずフル充電してからお使いください。

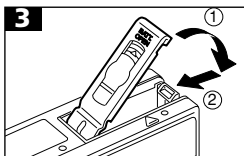
図A

図B

- 規定の充電をしたにも関わらず、著しく使用できる時間が低下するときは、寿命と考えられます。新しいバッテリーと交換してください。

バッテリーを入れる

同梱のバッテリーパック NB-1LHを入れます。バッテリーパック NB-1L（別売）も使用できます。

はじめてお使いになるときはバッテリーを充電してください。（p.20）

・バッテリーカバーを矢印の方向にスライドさせて開きます。

バッテリーロック

・バッテリーロックを矢印の方向に押しながらバッテリーがロックされるまで押し込みます。
・バッテリーはバッテリーの矢印と、カメラ底面の矢印を合わせ、正しく入れてください。
・バッテリーを取り出すときは、バッテリーロックを押して取り出します。

・バッテリーカバーを倒して元の位置に戻します。

- インジケーターが緑色に点滅しているときは、CFカードへの記録中/読み出し中/消去中、またはデータ転送中ですので、カメラの電源を切ったり、バッテリーカバーを開けないでください。
- カメラを使用しないときは、バッテリーを取り出しておいてください。ただし、バッテリーを取り出してから約3週間経過すると、日付/時刻やカメラの設定がリセットされる場合があります。

長時間お使いになるときは、家庭用電源をご使用ください。（p.134）

バッテリー残量について

バッテリー残量が低下すると、以下のようなアイコンやメッセージが表示されます。

	バッテリー残量が低下しています。長時間お使いになる場合は、早めに充電してください。 液晶モニターが消えているときは、⚡、□/⏲、🌷/▲ DISP. ⊙（CM モード時）ボタンのいずれかを押すと、表示されます。
バッテリーを交換してください	バッテリーの残量が少なく、動作不能です。直ちにバッテリーを交換してください。

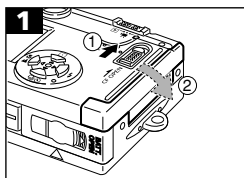
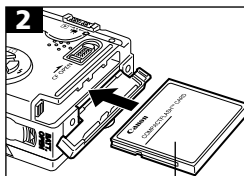
バッテリー性能について（p.143）

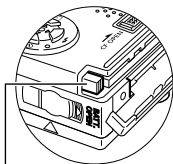
・この製品には、リチウムイオン電池を使用しています。
・この電池はリサイクル可能な貴重な資源です。
・交換後不要になった電池、及び使用済み製品から取り外した電池のリサイクルに関しては、ショートによる発煙、発火の恐れがありますので、端子を絶縁するためにテープを貼るか、ポリ袋に入れてリサイクル協力店にある充電式電池回収BOXに入れてください。
・リサイクル協力店へのお問い合わせは、以下へお願いします。
　・製品、リチウムイオン電池をご購入いただいた販売店
　・（社）電池工業会 小型二次電池再資源化推進センター及び充電式電池リサイクル協力店くらぶ事務局*

*（社）電池工業会ホームページ　http;//www.baj.or.jp/
電話番号　03-3434-0261

リサイクル時のご注意
・電池を分解しないでください。

CFカードを入れる

カメラの電源を切って、次のように入れます。

・ロック解除スイッチを矢印の方向へスライドし、CFカードスロットカバーを開きます。

ラベル面

・CFカードのラベル面を手前にし、CFカード取り出しボタンが飛び出すまで、しっかりと差し込んで、CFカードスロットカバーを閉じます。

CFカード取り出しボタン

・CFカードを取り出すときは、CFカード取り出しボタンを押して取り出します。

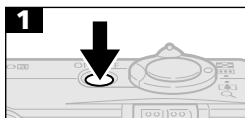
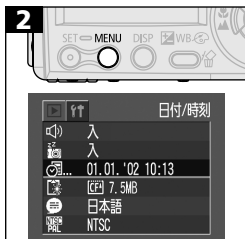
- インジケーターが緑色に点滅しているときは、CFカードへの記録中/読み出し中/消去中、またはデータ転送中ですので、絶対に次のことは行わないでください。画像データが壊れることがあります。
  - カメラ本体に振動や、衝撃を与える
  - カメラの電源を切ったり、CFカードスロットカバーを開ける
- 他社のカメラや、アプリケーションソフトウェアで編集したCFカードを使用すると、誤動作する恐れがありますのでご注意ください。

CFカードの種類と記録画像数の目安について (p.144)

取り扱いについて

- CFカードは精密電子機器です。曲げたり、強い力を加えたり、衝撃や振動を与えないでください。
- CFカードを分解したり、改造しないでください。
- 温度差の大きな場所へ急に移動すると、CFカードに水滴が付き（結露）、故障の原因になることがあります。結露を防ぐには、移動の前にビニール袋に入れて密閉しておき、周囲の温度に十分慣らしてからお使いください。
  結露したときは、水滴が自然に消えるまで常温で放置してください。
- CFカードは、下記の場所で使用したり、保管しないでください。
  - ●ほこりや砂ぼこりの立つ場所
  - ●高温多湿の場所

日付/時刻を設定する

はじめてカメラの電源を入れたとき、または内蔵の充電型リチウム電池の容量がなくなったときは、日付/時刻の設定画面が表示されます。手順3から操作してください。

・緑色のパワーランプが点灯するまで、メインスイッチを押します。

・**MENU**ボタンを押して、撮影または再生メニューを表示します。

・ボタンで［（設定）］メニューを選びます。

・ボタンでを選びます。

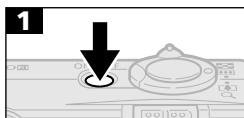
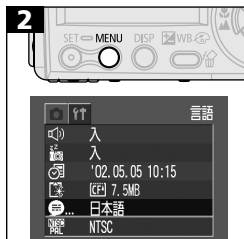
・ボタンで設定項目（年、月、日、時、分、日付スタイル）を選び、ボタンで設定内容を変更します。

・日付スタイルを設定後、**SET**ボタンを押すと、設定内容が確定します。

・**MENU**ボタンを押して、撮影または再生画面に戻ります。

バッテリーを取り出してから約3週間経過すると、設定した日付/時刻がリセットされる場合があります。再度、設定し直してください。

言語を設定する

液晶モニターのメニューやメッセージを、どの言語で表示するかを設定します。

・緑色のパワーランプが点灯するまで、メインスイッチを押します。

・MENUボタンを押して、撮影または再生メニューを表示します。

・ボタンで[(設定)]メニューを選びます。

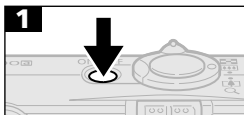
・ボタンでを選びます。

・ボタンで表示したい言語を選びます。

・MENUボタンを押して、撮影または再生画面に戻ります。

再生モードでは、SETボタンを押しながらMENUボタンを押すと、言語設定画面を表示できます。(ただし、プリンター(別売)接続時は言語設定できません。)

基本操作

電源を入れる

緑色のパワーランプが点灯するまで、メインスイッチを押します。

・ファインダー接眼部横の緑色のインジケーターが点滅します。

・モードスイッチが 、 のときは、レンズが出ます。

・モードスイッチを 、 から に切り換え、約1分経過すると、レンズは収納されます。

・モードスイッチが 、 のときは、液晶モニターがつきます。

再度メインスイッチを押すと、電源が切れます。

● はじめて電源を入れたとき、または内蔵の充電型リチウム電池の容量がなくなったときは、日付/時刻の設定画面が表示されます。日付/時刻を設定してください。（p.26）

● 節電機能が働いて電源が切れたときは、メインスイッチを押すと電源が再び入ります。

節電機能について

このカメラには節電機能がついています。
節電機能を［入］にしておくと、次のようなときに電源が切れます。
再度メインスイッチを押すと復帰します。

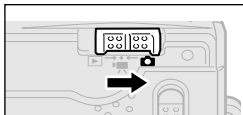
撮影時: 約3分間、何も操作しないとき
節電機能が「切」でも、液晶モニターを表示して約3分間、何も操作しないと、液晶モニターは消えます。
（メインスイッチ以外のボタンを押すとつきます。）

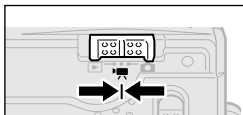
再生時: 約5分間、何も操作しないとき

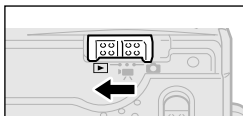
プリンター（別売）接続時:
約5分間、カメラの操作を何もせず、プリンターで何もプリントしないとき

コンピューター接続時:
約5分間、何も操作しないとコンピューター画面に警告メッセージが表示され、さらに1分間何も操作しないとき

- **スライドショーで自動再生中は、節電機能は働きません。**
- **節電機能が働かないよう、カメラの設定を変更できます。**（p.125）

撮影/再生を切り換える

撮影するとき（撮影モード）

モードスイッチを📷にスライドします。

撮影するとき（動画モード）

モードスイッチを🎥にスライドします。

再生するとき（再生モード）

モードスイッチを▶にスライドします。

・ プリンター（別売）と接続したときは、撮影した画像をプリントできます。（p.99）
・ コンピューターと接続したときは、コンピューターに撮影した画像を表示したり、取り込んだりできます。（p.117）

● プリンター（別売）への接続が完了すると、液晶モニターに、☑または🖨が表示されます。
● コンピューターへの接続が完了すると、液晶モニターは消えます。

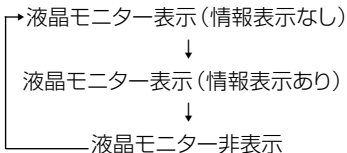
液晶モニターの使い方

画像を確認しながら撮影するときや、メニュー操作、または再生するときに液晶モニターを使います。

太陽や強い光が当たると、液晶モニターの表示が黒くなることがありますが、故障ではありません。

撮影するとき（モードスイッチが 、 のとき）

・ DISPボタンを押すたびに、次のように切り換わります。

液晶モニター表示（情報表示なし）
↓
液晶モニター表示（情報表示あり）
↓
液晶モニター非表示

- 液晶モニターの表示/非表示の設定は、カメラの電源を切っても記憶され、次回電源を入れたとき、直前の状態で使用できます。ただし、液晶モニターをつけて撮影しているとき、「バッテリーを交換してください。」というメッセージが表示された場合は、次回電源を入れたときに、液晶モニターがつかないことがあります。
- 、にしたときは、設定に関わらず液晶モニターがつきます。

撮影準備完了時に、上側のインジケーターが橙色に点滅し、液晶モニターに手ぶれ警告アイコン（ ）が表示された場合は、ストロボを にするか、三脚などでカメラを固定して撮影してください。

再生するとき（モードスイッチが ▶ のとき）

・モードスイッチを▶にすると、液晶モニターがつきます。
・DISPボタンを押すごとに、情報表示の切り換えができます。

シングル再生時

簡易表示→詳細表示→非表示

インデックス再生時

簡易表示→非表示

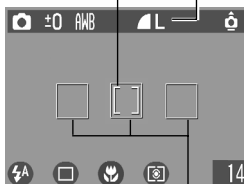
液晶モニターに表示される情報

撮影モード

撮影モードでは、液晶モニターの表示/非表示にかかわらず、以下の操作をしたときに、現在の設定内容や撮影可能画像数などの情報が約6秒間表示されます。

・電源を入れたとき
・DISP、⚡、連続撮影/セルフタイマー、マクロ/遠景、測光（CMモード時）ボタンのいずれかを押したとき
・カメラの設定を変更したとき
・撮影、または設定メニューを終了したとき

これらの情報が表示されている間に、ストロボ、連続撮影、セルフタイマー、マクロ、遠景の設定ができます。

● シャッターボタンを押して撮影を終了したとき、約2秒間（または約10秒間）撮影した画像を表示します。（画像表示中にSETボタンを押すと、表示し続けます。）
● 撮影した画像が液晶モニターに表示されているとき、画像の明るさを判断するためのグラフ、「ヒストグラム」（p.34）（やその他の情報）が表示され、画像の明るさを確認できます。必要であれば、露出を補正するなどして、撮り直してください。（ヒストグラムが表示されないときは、DISPボタンを押してください。）

次の情報を表示します。

	撮影モード	p.44
-2 ··· ±0 ··· +2	露出補正	p.66
1" ··· 15"	長秒時設定時間	p.67
AWB	ホワイトバランス	p.69
V N LS S BW	色効果	p.72
S	圧縮率	p.47
L M S 640 320 160	記録画素数	p.47
ISO 50 100 200 400	ISO感度	p.73
	縦横自動回転	p.74
AFL	フォーカスロック	p.60
AEL	AEロック	p.62
FEL	FEロック	p.63
A	ストロボ	p.49
10 2	撮影方法	p.54/55
	マクロ/遠景モード	p.51
	測光方式	p.65
●(赤)	動画撮影	p.59
x2.0 x2.5 x3.1 x4.0 x5.0	ズーム倍率*	p.52
	手ぶれ警告	p.31
	バッテリー残量低下	p.23

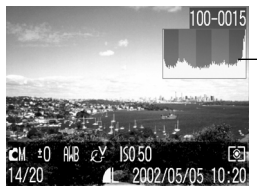
のアイコンは、情報表示なしのときも表示されます。

* 光学ズームとデジタルズームを組み合わせた倍率です。デジタルズーム時に表示されます。

再生モード（簡易表示）

簡易表示では、次の情報を表示します。

S	圧縮率	p.47
L M S	記録画素数（静止画）	p.47
♪	WAVE形式の音声	p.59
AVI	動画	p.59
	プロテクト情報	p.88

再生モード（詳細表示）

ヒストグラム

詳細表示では、さらに次の情報を表示します。

1" ･･･ 15"	長秒時設定時間	p.67
	撮影モード	p.44
-2 ･･･ ±0 ･･･ +2	露出補正	p.66
AWB	ホワイトバランス	p.69
V N LS S BW	色効果	p.74
ISO 50 100 200 400	ISO感度	p.73
	ストロボ	p.49
	マクロ/遠景モード	p.51
	測光方式	p.65
640 320 160	記録画素数（動画）	p.47
動画ファイルのとき記録時間表示	動画記録時間	p.59

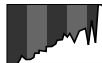
画像によっては、以下の情報を表示することがあります。

	WAVEファイル以外の音声ファイル、または、認識できないファイルが付いています。
	DCFの規格と異なる構造を持つJPEGファイルです。
RAW	RAW形式のファイルです。
?	認識できない形式のファイルです。

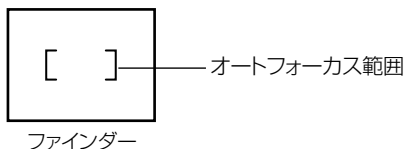
- このカメラで撮影した画像を他のカメラで再生する場合、あるいは他のカメラで撮影した画像をこのカメラで再生する場合、情報を正しく表示できないことがあります。
- **ヒストグラムについて**
  ヒストグラムは、撮影した画像の明るさを判断するためのグラフです。グラフが左に寄るほど暗い画像になり、右に寄るほど明るい画像になります。暗いほうに偏っているときは、露出をプラス側に補正し、明るいときはマイナス側に補正して撮影します。（p.66）

ヒストグラム例

暗い画像

普通の明るさの画像

明るい画像

ファインダーを使って撮る

ファインダーを使って撮影すると、消費電力を抑えることができます。
写したいもの(被写体)に、中央の四角枠(オートフォーカス範囲)を合わせて撮影します。
このファインダーの視野率は、約82%です。

●オートフォーカスについて

このカメラのオートフォーカス機能は、AiAF*を採用しています。AiAFは、広い測距範囲を持ち、ピント合わせを的確に判断します。ピントを合わせたい被写体が中央部から多少はずれている場合でも、目的の被写体にピントを合わせます。
AiAFを[切]にして、中央一点でオートフォーカスすることもできます。(p.64)
＊ Ai=Artificial intelligence:人工知能　AF=オートフォーカス

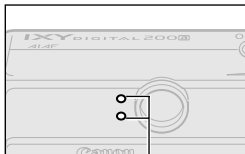
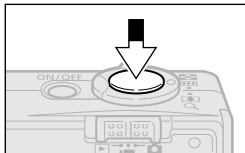
●ファインダーで見える範囲と撮影範囲との違いについて

ファインダーを使って撮影する場合は、ファインダーの特性上、ファインダーで見える範囲と実際に撮影される範囲にズレ(パララックス)が生じます。特に、被写体の距離が近い場合には、パララックスが大きくなり、ファインダーで見える範囲でも撮影されない場合があります。マクロモードでは、液晶モニターを使って撮影することをおすすめします。

シャッターボタンの押し方

シャッターボタンは、半押しと全押しの2段階で動作します。

半押し－浅く押したとき

露出、フォーカス、ホワイトバランスを自動設定します。

インジケーター

●インジケーターの設定状態

上側のインジケーター

・ 緑点灯：撮影準備完了
　　　　（電子音が2回鳴ります。）
・ 橙点灯：ストロボ発光
・ 橙点滅：手ぶれ警告/露出不足

下側のインジケーター

・ 黄点灯：マクロ撮影/遠景撮影
　　　　/フォーカスロック時（p.60 方法2）
・ 黄点滅：ピントが合いにくいとき*
　　　　（電子音が1回鳴ります。）

* 黄点滅したときは、フォーカスロックで撮影してください。（p.60）

●AF枠の表示（液晶モニターがついているとき）

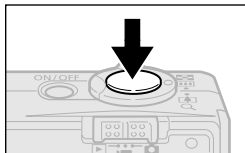
AiAFが[入]のとき

・緑色表示：撮影準備完了
（ピントの合ったAF枠）
・非表示：　ピントが合いにくいとき

AiAFが[切]（中央1点AF）のとき

・緑色表示：撮影準備完了
・黄色表示：ピントが合いにくいとき

全押し－深く押したとき

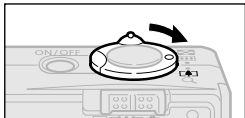
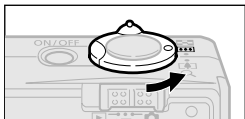
電子音が1回鳴り、撮影を実行します。

CFカードに記録中は上側のインジケーターが緑色に点滅します。

AF補助光について

- 暗い場所などでシャッターボタンを半押ししたとき、ピントをあわせやすくするために、AF補助光が光ることがあります。
- AF補助光を切ることもできます。（p.121）
  例えば、暗い場所で動物を撮るときなど、AF補助光で動物を驚かせて逃がすことなく撮影できます。（ただし、AF補助光を切ると、ピントが合いにくくなることがあります。）

ズーム（画角）を調節する

35mmフィルム換算で、35～70mmの範囲で画角を調節できます。

望遠/広角

[♠] 側に押すと、被写体を大きく写します（望遠）。

[♠♠♠] 側に押すと、被写体を小さく写します（広角）。

デジタルズーム

液晶モニターがついているときは、光学ズームと合わせて最大5.0倍に拡大して撮影できます。（p.52）

モードによってデジタルズームが使えないことがあります。（p.76）

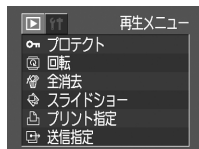
デジタルズームは、拡大するほど画質は粗くなります。

メニューの選択と設定のしかた

撮影時や再生時の設定などは、メニューを使って操作します。
メニューを使った操作は、下記のように行います。
メニュー項目や設定内容については、「メニュー設定項目と初期設定（p.42）」をご覧ください。

1 **MENUボタンを押します。**

メニューが表示されます。

モードスイッチが、のとき

モードスイッチがのとき

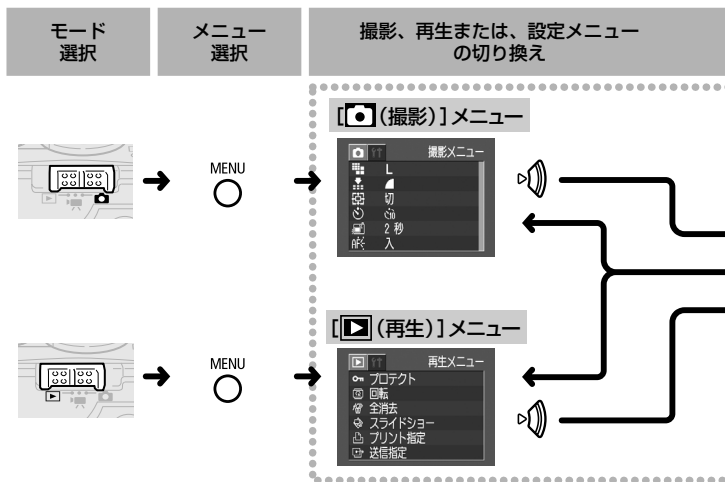
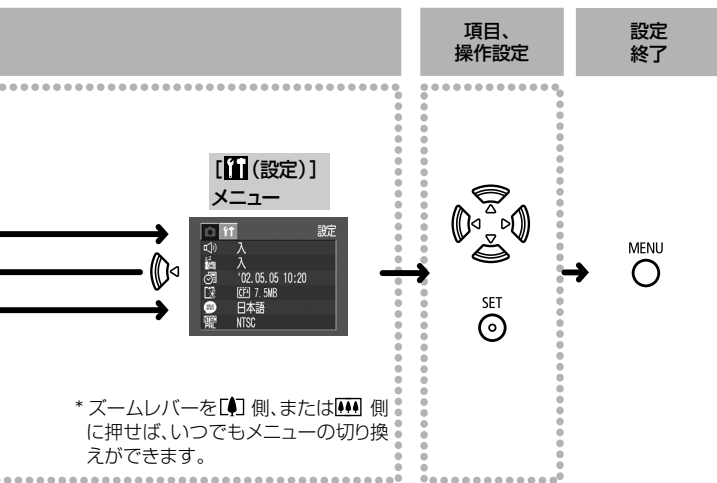
2 **ボタンで撮影/再生、または設定メニューを選びます。**

3 **ボタンでメニュー項目を選びます。**

4 **撮影メニュー/設定メニュー（一部）：ボタンで設定したい内容を選びます。**

再生メニュー/設定メニュー（一部）：SETボタンを押してから、詳細な設定をします。

5 **MENUボタンを押します。**

メニューの選択と設定のしかた(つづき)

再生メニューの [プリント指定] の操作については、「プリントメニューの選択と設定のしかた」(p.94)をご覧ください。

メニュー設定項目と初期設定

各メニューで設定できる項目と初期設定は、次のとおりです。

メニュー項目		設定内容	参照ページ
撮影メニュー（赤）	記録画素数（静止画）	L 1600 X 1200*/ M 1024 X 768/ S 640 X 480	p.47
	記録画素数（動画）	640 640 X 480/ 320 320 X 240*/ 160 160 X 120	p.47
	圧縮率	スーパーファイン/ ファイン*/ ノーマル	p.47
	ISO感度	50* / 100 / 200 / 400 / AUTO	p.73
	AiAF	入 */ 切	p.64
	デジタルズーム	入 / 切*	p.52
	セルフタイマー	10 */ 2	p.55
	撮影の確認	切 / 2秒* / 10秒	p.46
	AF補助光	入* / 切	p.121
	番号リセット機能	入 / 切*	p.75
	縦横自動回転	入* / 切	p.74
	長秒時撮影	入 / 切*	p.67
再生メニュー（青）	プロテクト	プロテクトを設定します。	p.88
	回転	回転して表示します。	p.83
	全消去	すべての画像を消去します。	p.90
	スライドショー	自動再生します。	p.84
	プリント指定	プリント指定をします。	p.94
	送信指定	送信指定をします。	p.113

メニュー項目		設定内容	参照ページ
設定メニュー（黄）	電子音	入* / 切	p.125
	節電	入* / 切	p.29
	日付/時刻	日付/時刻を設定します。	p.26
	CFの初期化	CFカードを初期化します。	p.91
	言語	English / Deutsch / Français / Nederlands / Dansk / Suomi / Italiano / Norsk / Svenska / Español / 汉语 / 日本語*	p.27
	ビデオ出力方式	NTSC* / PAL	p.115

* 初期設定

- 撮影モードによって、選択できないメニュー項目があります。
- [日付/時刻]、[言語]、[ビデオ出力方式] 以外のメニュー設定と、ボタン操作によるカメラの設定を、一度にすべて初期設定に戻せます。（p.127）

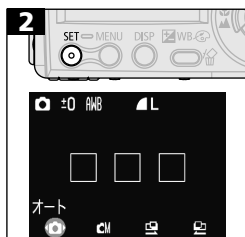
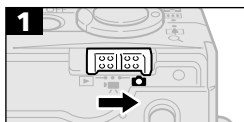
撮影

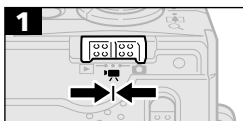
撮影モードを選択する

このカメラには、次の撮影モードがあります。

	オート	ほとんどの設定をカメラにまかせて撮影します。
	マニュアル	露出、ホワイトバランスなど、手動で選択できます。
	スティッチアシスト	パノラマ合成用の画像を撮影します。
	動画	動画を撮影します。

各撮影モードで設定した内容は、撮影モードを変更しても、保持されます。また設定によっては、電源を切っても保持されます。（p.76）

の選択

・ ボタンで撮影モードを選びます。

の選択

以降、このガイドでは、撮影モードを見出しの横にマークで示します。手順1の操作をする前に、撮影モードを見出しのマークにしてください。（p.2）

撮影直後に画像を確認する

液晶モニターの表示/非表示に関わらず、撮影直後に、シャッターボタンを離しても、約2秒間、撮影した画像を表示します。また、次の方法でも確認できます。

- **シャッターボタンを全押しし続ける**
- **撮影した画像が表示されている間にSETボタンを押す**
  シャッターボタンを半押しにすると解除されます。

画像確認中は、次のことができます。
- ヒストグラムで明るさを確認する（p.34）
- 消去する（p.89）

撮影した画像の確認時間を変更する

撮影した画像は、約2秒間液晶モニターに表示されます。この画像の確認時間を[切]または[10秒]に変更できます。

1

[（撮影）]メニューから を選びます。

- ・メニューの選択と設定のしかた（p.39）
- ・ボタンで[切]、[2 秒]または[10秒]を選びます。
- ・[切]の場合、画像は表示されません。ただし撮影後、シャッターボタンを全押しし続けたときには表示できます。
- ・[2秒]または[10秒]の場合、シャッターボタンを離しても、2秒または10秒間、画像を表示します。
- ・[2秒]または[10秒]の場合でも、シャッターボタンを全押しし続けると、設定時間を超えても画像を表示できます。
- ・画像の表示中でも撮影はできます。

2

- ・撮影画面に戻ります。

記録画素数/圧縮率を変更する

目的に応じて、記録画素数、圧縮率（動画を除く）を変更できます。

記録画素数は、S（スモール）→M（ミドル）→L（ラージ）の順に大きくなります。大きくプリントしたい場合は、大きな画素数を選ぶことをおすすめします。また小さなシールにプリントする場合や、電子メールで送ったり、より多くの画像を撮影したいときなどは、小さな画素数を選ぶことをおすすめします。画質は、（ノーマル）→（ファイン）→（スーパーファイン）の順に高画質になります。より良い画質で撮影したい場合は、（スーパーファイン）を、より多くの画像を撮影したい場合は、（ノーマル）をおすすめします。通常は、（ファイン）で十分な画像が得られます。

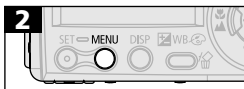
記録画素数	
L（ラージ）	1600 ×1200画素
M（ミドル）	1024 × 768画素
S（スモール）	640 × 480画素

圧縮率	
S	スーパーファイン
	ファイン
	ノーマル

動画の場合は、次の記録画素数で撮影できます。

記録画素数	
640	640 × 480画素
320	320 × 240画素
160	160 × 120画素

1

[(撮影)] メニューから または を選びます。

・メニューの選択と設定のしかた (p.39)

・ ボタンで設定したい内容を選びます。

(記録画素数)(動画を除く)のとき

[ラージ]、[ミドル]、[スモール]のいずれかを選びます。

(記録画素数)(動画)のとき

[640×480]、[320×240]、[160×120]のいずれかを選びます。

(圧縮率)のとき

[スーパーファイン]、[ファイン]、[ノーマル]のいずれかを選びます。

2

・撮影画面に戻ります。

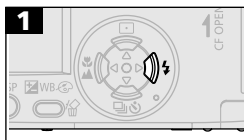
- 各モードで変更できる設定 (p.76)
- 1画像の容量(目安)について(p.144)
- CFカードの種類別、記録可能画像数について(p.144)

ストロボを使って撮る

	オート	明るさに応じて自動的にストロボを発光して撮影します。
	赤目緩和オート	明るさに応じて自動的にストロボを発光して撮影します。常に赤目緩和ランプを発光します。
	オン	常にストロボを発光して撮影します。
	オフ	撮影時にストロボは発光しません。
	スローシンクロ	遅いシャッター速度で、ストロボを発光して撮影します。夜景や室内の照明を利用した撮影などで、背景だけが暗くなるのを軽減できます。 常に赤目緩和ランプを発光します。 三脚をお使いになることをおすすめします。

	○	○	―
	○	○	―
	―	○	△
	○	○	△
	―	○	△

○:設定可

△:最初の1画像のみ設定可

・ ボタンを押すごとに切り換わります。

- ISO感度を上げてストロボ撮影する場合、被写体との距離が近いほど白飛びしやすくなります。
- ストロボがオフおよびスローシンクロのとき、暗いところではシャッター速度が遅くなり,画像がぶれることがありますのでご注意ください。

  ・で撮影するとき

  手ぶれしないように、カメラをしっかり持って撮影してください。

  ・で撮影するとき

  での撮影よりも、シャッター速度が遅くなるので、必ず三脚をお使いください。で撮影した画像が暗い場合、で撮影すると、より明るい画像が得られます。

- インジケーターが橙色に点灯するときは、ストロボが発光します。
- ストロボの充電には約10秒かかる場合があります。充電時間は使用状況やバッテリーの残量などにより変わります。
- ストロボの発光は、プリ発光とメイン発光の2回行われます。プリ発光（ストロボ撮影に必要な露出情報を得るための予備的な発光）で得た被写体の露出情報をもとにして、メイン発光（ストロボ撮影を行うための発光）に必要な発光量が決められ、最適な発光量でストロボ撮影が行われます。

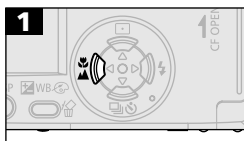
赤目緩和機能について

- 暗い所でストロボを発光すると、ストロボの光が反射して目が赤く写ることがあります。このようなときは、赤目緩和で撮影してください。その場合、写される人が赤目緩和ランプを見ていないと効果がありません。ランプを見るよう声をかけてください。また、「レンズを広角側にする」、「室内を明るくする」、「写したい人に近づく」とより効果があります。
- 赤目緩和ランプが点灯するとき、効果を高めるために、約1秒間シャッターは切れません。すぐにシャッターを切りたいときは、ストロボの設定を、、またはにして撮影してください。

至近距離 / 遠距離で撮影する

	至近距離（マクロ）	レンズ前面から被写体までの距離が10cm（テレ端では27cm）～ 57cmのときに使います。
	遠距離（遠景）	風景を撮影するときに使います。 近いものと遠いものが混在していて、遠いものを撮影したいときにも使います。

至近距離	○	○	△	○
遠距離	－	○	△	○

○:設定可
△:最初の1画像のみ設定可

・ またはを表示します。

- マクロモードでは、液晶モニターを使って撮影してください。ファインダーをお使いになると、撮影範囲がずれます。
- マクロモードで撮影距離が10～27cmのときにストロボをお使いになると、画像の明るさが適切にならないことがあります。

●マクロモード時の撮影範囲について

	レンズ前面から被写体までの距離	撮影範囲
テレ端	27cm	138 X 103mm
ワイド端	10cm	102 X 76mm

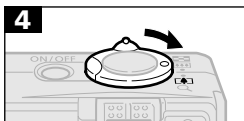
デジタルズームで撮る

液晶モニターがついているときは、光学ズームと組み合わせて、2.5倍、3.1倍、4.0倍、5.0倍の倍率（目安）に拡大できます。

・液晶モニターをつけます。

・メニューの選択と設定のしかた （p.39）

・ ボタンで［入］を選びます。

・撮影画面に戻ります。

・最も望遠側（テレ端）まで拡大すると、いったん停止します。再度、［ ］側へ押すと、デジタルズームが働き、さらに拡大できます。
・ 側へ押すと、倍率が下がります。

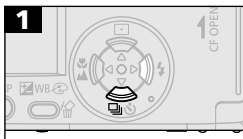
光学ズームとデジタルズームを組み合わせた倍率を表示

モードによって、デジタルズームが使えないことがあります。（p.76）

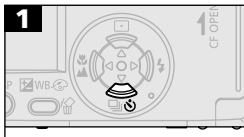
デジタルズームは、拡大するほど画質が粗くなります。

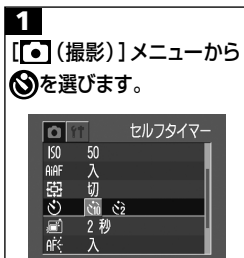
連続して撮る

シャッターボタンを押している間、約2.5画像/秒*（ラージ/ファインモード、液晶モニター非表示）の速さで連続して撮影します。シャッターボタンを離すと撮影が終了します。

*当社測定条件によるもので、被写体、撮影条件などにより変わります。

・ を表示します。

- 内部メモリーがいっぱいになると、撮影間隔が多少遅くなることがあります。
- ストロボが発光する場合には、ストロボの充電時間が必要なため、撮影間隔が長くなります。

セルフタイマーを使って撮る

・ を表示します。
・ シャッターボタンを押すとセルフタイマーがスタートし、セルフタイマーランプが点滅します。

セルフタイマーの時間を変更する

・ メニューの選択と設定のしかた（p.39）

・ ボタンで［10秒］または［2秒］を選びます。
・ ［10秒］を選んだときは、撮影2秒前になるとセルフタイマー音が速く鳴り、点滅も速くなります。
［2秒］を選んだときは、シャッターボタンを押すと同時にセルフタイマー音が鳴って、2秒後に撮影されます。

・撮影画面に戻ります。

スティッチアシストで撮る

スティッチアシストモードは、撮影した画像をコンピューターで合成し、パノラマ画像を作るときに使います。

複数の画像をつなぎ合わせて、パノラマ画像を作成できます。

コンピューターでの画像合成は、同梱の「PhotoStitch」をお使いください。

被写体のとらえ方

PhotoStichは、隣り合う画像の共通部分を見つけて合成処理を行います。共通部分には、できるだけ特徴のある被写体（目印となる被写体）を入れて撮影してください。

- 隣り合う画像の共通部分は、画像の幅の30～50%になるように撮影します。また、上下のズレは、画像の高さの10%以内で撮影します。
- 共通部分には、動いている被写体などが入らないように注意してください。

- 遠くの被写体と近くの被写体が混在する画像をスティッチしないでください。物体がゆがんだり、二重に写ったりすることがあります。
- 撮影時の明るさはできるだけそろえてください。画像の明るさが違いすぎると、不自然な画像になってしまうことがあります。
- 遠くの風景を撮るときは、カメラを中心に回転して撮影します。
- 至近距離では、カメラをスライド（カメラを被写体に対して平行移動）させます。

撮影する

スティッチアシストモードには、次の2つの撮影方向があります。

	左→右	左から右方向へ水平に撮影します。
	左←右	右から左方向へ水平に撮影します。

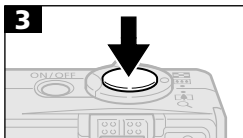
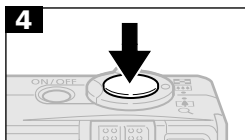
1

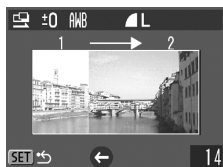
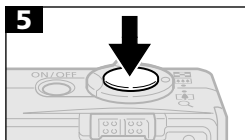
撮影モードの選択**（p.44）**

・撮影モードを にすると液晶モニターがつきます。

のとき

2

3

・最初の画像を撮影します。
・1画像目の撮影で、露出やホワイトバランスがロックされます。

2画像目の撮影

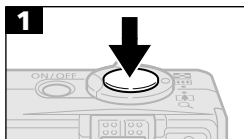
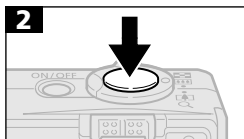
・最初の画像にオーバーラップさせて、次の画像を撮影します。

・◁▷ボタンを押すと、撮影済みの画像に戻り、撮影のやり直しができます。
・オーバーラップは多少ずれても、合成時に修正されます。

3画像目の撮影

・繰り返し、3画像目以降を撮影します。最大26画像まで撮影できます。

・**SET**ボタンで撮影を終了します。

● このモードで変更できる設定（p.76）
● マニュアルホワイトバランスの場合、では基準となる白データの取り込みができません。あらかじめ、他の撮影モードで白データを取り込んでおいてください。（p.70）
● 2画像目以降の撮影では、最初の撮影の設定が適用されます。
● テレビと接続しても、液晶モニターの画像をテレビに表示して撮影できません。

動画を撮る

記録画素数は、[(撮影)]メニューの[記録画素数]で、640(640×480)、320(320×240)(初期設定)、または160(160×120)を選べます。(p.47)

- シャッターボタンを全押しすると撮影が開始され、同時に音声も記録されます。
- 撮影中は、液晶モニターに、撮影秒数と赤丸が表示されます。

- 撮影を終了するときは、再度、シャッターボタンを全押しします。
- 1回の撮影時間(約20フレーム/秒)は、640:約4秒、320:約10秒、160:約30秒(当社測定条件による)です。これらの時間は、被写体、撮影状況などにより変わることがあります。これらの時間が経過するか、またはCFカードの容量がいっぱいになると自動的に撮影が終了します。

- 撮影中は、マイクに触れないようにしてください。
- AE、AF、ホワイトバランス、ズーム(画角)は、撮影を開始したとき(最初のフレーム)の設定値に固定されます。
- 撮影後、CFカードへの記録中は緑色のインジケーターが点滅します。このときは、撮影できません。
- このモードで変更できる設定(p.76)

- 音声は、モノラルで録音されます。
- 動画撮影時にシャッターボタンを全押ししても、電子音は鳴りません。
- 動画ファイル(ファイル形式:AVI、圧縮形式:Motion JPEG)をコンピューターで再生するには、QuickTime 3.0以上が必要です。(同梱のDigital Camera Solution Diskには、QuickTime 5.0が収められています。)

フォーカスロックで撮る（AFロック）

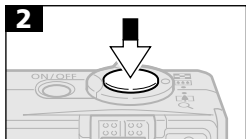
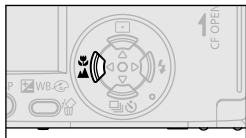
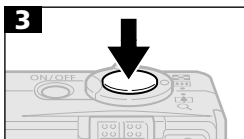
次のような被写体は、ピントが合わないことがあります。フォーカスロックで撮影してください。

- コントラストが極端に低い被写体
- 画像中央部が極端に明るい被写体
- 高速で移動する被写体
- ガラス越しの被写体
  できるだけガラスに近寄り、反射による写り込みのない状態で撮影してください。

フォーカスロック撮影・方法1

1. ピントを合わせたい被写体と同じ撮影距離にある異なる被写体をファインダー中央、または液晶モニターに表示されているAF枠に収めます。
2. シャッターボタンを半押しし、電子音が2回鳴るまで待ちます。
3. カメラの向きを変えて構図を決め、シャッターボタンを全押しします。

フォーカスロック撮影・方法2

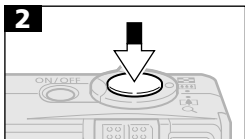
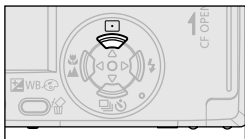
・液晶モニターをつけます。
・ピントを合わせたい被写体と同じ撮影距離にある異なる被写体を、AF枠の中に収めます。

・シャッターボタンを半押しし、電子音が2回鳴るまで待った後、✿/▲ボタンを押します。
・AFLが表示され、下側のインジケーターが黄色に点灯します。

・カメラの向きを変えて構図を決め、撮影します。
・フォーカスロックを解除するには、🌷/▲ボタンを押します。

● 方法2は、シャッターボタンを離して構図を決められるので便利です。また、撮影後もフォーカスロックされたままなので、同じピントですぐに次の撮影ができます。
● 方法2のフォーカスロックは、ズームレバー、**MENU**ボタン、**DISP**ボタンを押したり、撮影モードを変更しても、解除されます。

露出を固定して撮る（AEロック）

露出とピントを別々に決めて撮影できます。被写体と背景のコントラストが極端に強いときや、逆光下での撮影などに有効です。

ストロボは必ずに設定し、ストロボを発光させないでください。ストロボが発光すると、AEロックが働きません。

・液晶モニターをつけます。
・露出を固定したい被写体にピントを合わせます。

・シャッターボタンを半押しし、電子音が2回鳴るまで待った後、ボタンを押します。
・AELが表示されます。

・カメラの向きを変えて構図を決め、撮影します。
・AEロックを解除するには、ボタン、を押します。

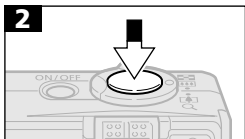
ボタン以外のボタンを押すと、AEロックが解除されることがあります。

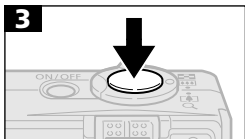
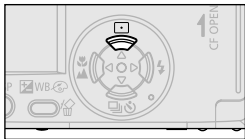
FEロックで撮る

被写体の任意の部分に適正調光させたストロボ撮影ができます。

1

- 液晶モニターをつけます。
- ストロボを⚡に設定し、露出を固定したい被写体にピントを合わせます。

2

- シャッターボタンを半押しし、電子音が2回鳴るまで待った後、●ボタンを押します。
- FELが表示されます。
- ストロボがプリ発光し、被写体に必要な露出量を記憶します。

3

- カメラの向きを変えて構図を決め、撮影します。
- FEロックを解除するには、●ボタン、を押します。

●ボタン以外のボタンを押すと、FEロックが解除されることがあります。

オートフォーカス方式を切り換える

オートフォーカス機能はAiAFに設定されていますが、中央1点のオートフォーカスに切り換えられます。
液晶モニターをつけているときは、AF枠が表示されます。(p.31)

□□□	入	撮影状況に応じてカメラが自動的にAF枠を選択してピントを合わせます。
□	切	中央のAF枠が有効になります。狙った被写体に確実にピントを合わせたり、構図を楽しむのに便利です。

□は、液晶モニター上に表示される枠です。

1

[(撮影)] メニューから AiAF を選びます。

・メニューの選択と設定のしかた (p.39)

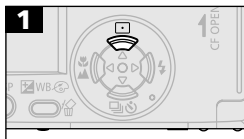
・ボタンで、[入] または [切] を選びます。
・このあと、すぐに撮影できます。

2

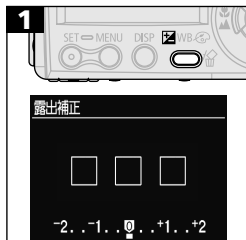
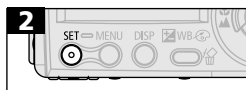
・撮影画面に戻ります。

測光方式を切り換える

測光方式を切り換えて撮影できます。

（評価測光）	逆光撮影を含む一般的な撮影に適しています。画面内を多分割して測光します。画面内の被写体の位置、明るさ、順光、逆光など複雑な光の要素をカメラが判断し、主被写体を常に適正な露出にします。
（スポット測光）	液晶モニター中央部の「スポット測光枠」内を測光します。逆光などで被写体の周囲に強い光があるときに利用します。

・ 、または を表示します。

露出を補正する

逆光や背景が明るい場所での撮影で、被写体が暗くなってしまったり、夜景の撮影でライトが明るすぎるようなときに、露出を補正します。

- ◁▷ボタンで露出を補正します。
- 補正量は、−2〜+2の範囲で1/3段ずつ変更できます。
- 液晶モニターがついている場合は、液晶モニターの表示画像で補正結果が確認できます
- このあと、すぐに撮影できます。また、撮影後は再びこの画面が表示され、補正値を変更できます。

- 露出補正を解除するには、補正値を「0」に戻します。

長秒時設定で撮る

暗い被写体を明るく撮影したいときは、シャッター速度を遅くして、撮影できます。

1

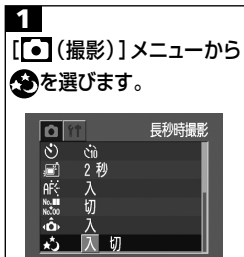
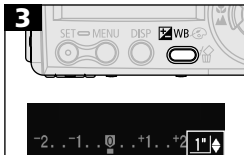
[(撮影)] メニューから を選びます。

・メニューの選択と設定のしかた (p.39)

・ ボタンで、[入] を選びます。

2

・撮影画面に戻ります。

3

長秒時設定のメニュー

・ ボタンで長秒時撮影のメニューを選び、 ボタンでシャッター速度を選びます。
・このあとすぐに撮影できます。また撮影後は、再びこの画面が表示され、設定を変更できます。
・長秒時撮影を解除するときは、長秒時撮影のメニューが表示されているときに、 ボタンを押します。

4

シャッター速度が遅くなると、CCDの特性により撮影した画像にノイズが増えますが、このカメラはシャッター速度が1.3秒より遅くなると、このノイズを除去する処理を行い、高画質が得られます。（ただし、次の撮影までにしばらく時間がかかります。）

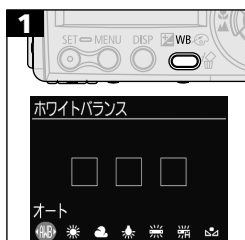
- 意図した明るさで撮影されているかは、液晶モニターでご確認ください。
- ストロボを発光すると、露出オーバーになることがあります。その場合は、ストロボを にして撮影してください。
- 長秒時設定で撮るときは、次の設定ができません。
  - 露出補正
  - 測光方式
  - AEロック
  - ISO感度［AUTO］

設定できるシャッター速度について

1　1.3　1.6　2　2.5　3.2　4　5　6　8　10　13　15（秒）

WB ホワイトバランスを設定する

撮影時の光源に応じてホワイトバランスを設定すると、その光源に合った適正な色に調整できます。自然光や照明光で撮影するとき、撮影条件に応じてホワイトバランスを設定します。

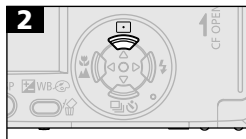
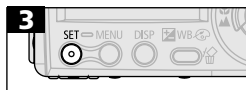
AWB	オート	カメラが自動的にホワイトバランスを調整します。
	太陽光	晴天の屋外で撮影するときに選択します。
	くもり	曇天や日陰、薄暮などで撮影するときに選択します。
	電球	電球、電球色タイプ（3波長型）の蛍光灯のもとで撮影するときに選択します。
	蛍光灯	昼白色蛍光灯、白色蛍光灯、昼白色タイプ（3波長型）の蛍光灯のもとで撮影するときに選択します。
	蛍光灯H	昼光色蛍光灯、昼光色タイプ（3波長型）の蛍光灯のもとで撮影するときに選択します。
	マニュアル	白紙などを使って、その撮影状況下で最適なホワイトバランスを設定します。

・ホワイトバランス設定画面が表示されるまで、WBボタンを何回か押します。

・ボタンでホワイトバランスを選びます。（について p.70）
・液晶モニターがついている場合は、液晶モニターの表示画像で設定が確認できます。
・このあと、すぐに撮影できます。また、撮影後は再びこの画面が表示され、設定を変更できます。

色効果が S BW の場合、ホワイトバランスは設定できません。

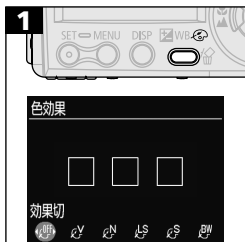
マニュアルホワイトバランスを設定する

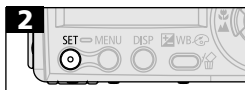
白い紙や布など、白を基準としたいものをカメラに記憶させ、その撮影状況下で最適なホワイトバランスを設定できます。

- ホワイトバランス設定画面が表示されるまで、**WB**ボタンを何回か押します。
- ◀▶ボタンでを選びます。

- カメラを白い紙や布に向け、●ボタンを押します。
- 液晶モニターを使う場合は、中央の枠いっぱいに、またファインダーを使う場合は、画面いっぱいに白い紙や布が表示されるよう構図を決めてから●ボタンを押してください。●ボタンを押すと、白データが取り込まれます。
- このあと、すぐに撮影できます。また、撮影後は再びこの画面が表示され、設定を変更できます。

- 撮影モードをCMにし、露出補正を±0にすることをおすすめします。適正露出でない場合（真っ黒や真っ白）は、白データを正しく取り込めないことがあります。
- 液晶モニターを使い、ズームをテレ端の位置にすることをおすすめします。
- では、白データの取り込みはできませんので、あらかじめ、他の撮影モードで白データを取り込んでおいてください。
- ストロボがでマニュアルホワイトバランスを設定する場合、白データ取り込みの際にストロボが発光したときは、撮影時もストロボを発光させてください。白データ取り込み時と撮影時のストロボ状態をあわせないと最適なホワイトバランスが設定できないことがあります。ストロボ状態をあわせるために、ストロボをまたはに設定することをおすすめします。

色効果を切り換える

色効果を変えて撮影できます。

	効果切	通常はこの設定で撮影します。
	くっきりカラー	コントラストと色の濃さを強調し、くっきりした色合いで撮影します。
	すっきりカラー	コントラストと色の濃さを抑え、すっきりとした色合いで撮影します。
	ソフト	輪郭の強調を抑えて撮影します。
	セピア	セピア色で撮影します。
	白黒	白黒で撮影します。

・色効果設定画面が表示されるまで、ボタンを何回か押します。

・ボタンで色効果を選びます。
・液晶モニターがついている場合は、液晶モニターの表示画像で色効果が確認できます。
・このあと、すぐに撮影できます。また、撮影後は、再びこの画面が表示され、設定を変更できます。

ISO感度を変更する

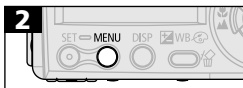
暗いところでの撮影や、シャッター速度を速くしたいときには、ISO感度を変更します。

1

[(撮影)] メニューから を選びます。

・メニューの選択と設定のしかた (p.39)

・ボタンで感度を選びます。

2

・撮影画面に戻ります。

- ISO感度が[AUTO]のときは、ISO 50～150の間で自動設定されます。
- ISO感度を上げると、画像にノイズが増えます。きれいに撮りたいときは、なるべく低い感度を選んでください。

縦横自動回転の設定をする

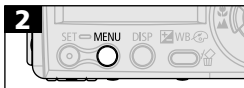
カメラにはSIセンサーが装備されており、縦位置で撮影した画像は、再生時に正しい縦位置に回転して表示されます。この機能の入/切を設定できます。

1

[(撮影)] メニューから を選びます。

・メニューの選択と設定のしかた (p.39)

・ ボタンで [入] を選びます。

2

・撮影画面に戻ります。

・縦横自動回転を [入] にすると、液晶モニター表示（情報表示あり）時、画面右上に （通常）、 （右が下）、または （左が下）が表示されます。

このカメラは、SIセンサーにより、縦位置で構えて撮影する場合、上側を「天」、下側を「地」と判断し、フォーカス、露出、ホワイトバランスの精度を上げるために、3つあるAF枠（AiAF時）の上側2つだけが有効になります（下のAF枠が消えます。）。この機能は、縦横自動回転の入/切に関係なく有効です。

- カメラを真上や真下に向けて撮影すると、正しく機能しない場合があります。アイコン（ ）を確認し、正しく天地を判断しない場合は、[切] にしてお使いください。
- 縦横自動回転の設定が [入] のときに縦位置で撮影した画像をコンピューターに取り込む場合、取り込みに使用するソフトウェアによっては、回転結果が反映されないことがあります。

ファイル番号をリセットする

ファイル番号の設定方法を選択します。

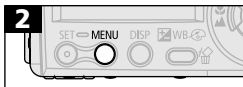
入	新しいCFカードを入れるたびにファイル番号が初期値（100-0001）に戻ります。記録済みのCFカードを入れたときは、続きの番号になります。
切	最後のファイル番号が記憶され、新しいCFカードを入れても続きのファイル番号になります。

1

[(撮影)] メニューから を選びます。

・メニューの選択と設定のしかた (p.39)

・ボタンで [入] または [切] を選びます。

2

・撮影画面に戻ります。

● 番号リセット機能を [切] で撮影すると、ファイル番号が重複しないため、コンピューターでまとめて管理するような場合に便利です。

ファイル番号について

撮影した画像には、0001～9900までのファイル番号が割り振られ、ひとつのフォルダに100画像ずつ保存されます。各フォルダには、100～998までの番号が割り振られます。（下2桁が99のフォルダは作られません。）

やで撮影した画像は、必ずひとつのフォルダに保存されるため、フォルダ内に101画像以上保存されることがあります。

各撮影モードで設定できる機能一覧

下記の表を参考に、撮影状況に合わせて各種設定を行い、撮影してください。各撮影モードで設定した内容は、撮影後も設定が保持されます。また、撮影モードを変更しても保持されます。

機能		オート	マニュアル	スティッチアシスト	動画	参照ページ
記録画素数	ラージ L	○*	○*	△*	―	p.47
	ミドル M	○	○	△	―	
	スモール S	○	○	△	―	
	動画 640	―	―	―	○	
	動画 320	―	―	―	○*	
	動画 160	―	―	―	○	
圧縮率	スーパーファイン	○	○	△	―	p.47
	ファイン	○*	○*	△*	―	
	ノーマル	○	○	△	―	
ストロボ	オート	○	○	―	―	p.49
	赤目緩和オート	○*	○*	―	―	
	オン	―	○	△	―	
	オフ	○	○	△*	○	
	スローシンクロ	―	○	△	―	
マクロ撮影		○	○	△	○	p.51
遠景撮影		―	○	△	○	p.51
フォーカスロック	AFL	―	○	―	―	p.60
AEロック	AEL	―	○	―	―	p.62
FEロック	FEL	―	○	―		p.63
撮影方法	シングル撮影	○*	○*	△*	○*	―
	連続撮影	―	○	―	―	p.54
	セルフタイマー	○	○	△	○	p.55
オートフォーカス方式の選択		―	○	―	―	p.64

機能	オート	マニュアル	スティッチアシスト	動画	参照ページ
AF補助光	○	○	△	○	p.37
測光方式	—	○	—	—	p.65
デジタルズーム	○	○	—	—	p.52
露出補正	—	○	△	○	p.66
長秒時撮影	—	○ (1)	—	—	p.67
ホワイトバランス	—	○	△	○	p.69
色効果	—	○	△	○	p.72
ISO感度	— (2)	○	— (2)	— (2)	p.73
縦横自動回転	○	○	△	—	p.74

*:初期設定　○:設定可　△:最初の1画像のみ設定可

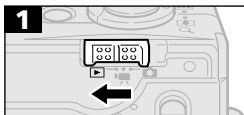
- :電源を切っても解除されません。
- [日付/時刻]、[言語]、[ビデオ出力方式] 以外のメニュー設定と、ボタン操作によるカメラの設定を、一度にすべて初期設定に戻せます。(p.127)

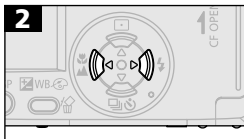
(1) ISO感度 [AUTO] は設定できません。

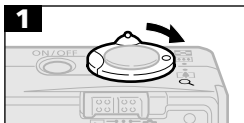
(2) ISO 50～150相当で自動設定

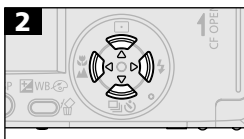
再生

1画像ずつ見る

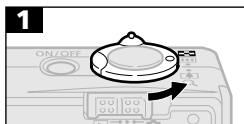
1

・モードスイッチを▶にします。
・最後に撮影した画像が表示されます。（シングル再生）

2

・◀ボタンで前の画像、▶ボタンで次の画像を表示します。ボタンを押し続けると早く進みます。ただし、表示される画像は粗くなります。

拡大して見る

・画像が最大約10倍まで拡大して表示されます。

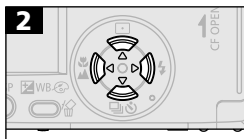
表示位置の目安

・ボタンで上下左右方向の表示位置を変更します。
・SETボタンを押しながら、ズームレバーを側に押すと、画像が約2.5倍→約5倍→約10倍の順に拡大表示されます。
・ズームレバーを側に押すと、拡大表示が解除されます。

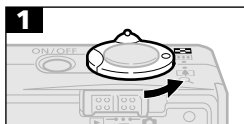
動画、インデックス再生時は、拡大表示できません。

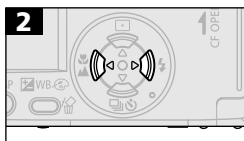
9画像ずつまとめて見る

・ 9画像ずつまとめて表示されます（インデックス再生）。

選択画像

動画

2

・▲▼◀▶ボタンで選択画像を移動できます。
・ズームレバーをQ側に押すと、選択画像がシングル再生されます。

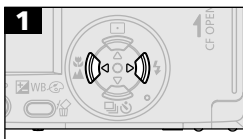
9画像ずつ表示を切り換える

・9画像単位に、表示の切り換えができます。

2

・◀ボタンで前の9画像、▶ボタンで次の9画像を表示します。
・**SET**ボタンを押しながら、◀▶ボタンを押すと、最初または最後の9画像を表示します。
・ズームレバーをQ 側に押すと、インデックス再生に戻ります。

動画を見る

で撮影した動画を再生します。

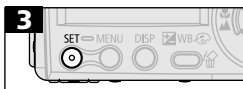
インデックス再生のときは、動画は再生できません。

1

・ボタンで動画を選びます。
SET の表示されている画像が動画です。

2

・動画再生パネルが表示されます。
・ボタンでを選びます。

3

SET MENU DISP WB

・動画が再生されます。
・再生を終了すると、最後のフレームを表示して停止します。

●再生の一時停止/再開

・ **SET**ボタンを押すと再生を一時停止します。再度**SET**ボタンを押すと再開します。

●画像送り/戻し

・ ◀▶ボタンで次のいずれかの操作を選びます。

▶ :再生
◀II :コマ戻し/巻き戻し
II▶ :コマ送り/早送り
I◀◀ :最初のフレームを表示
▶▶I :最後のフレームを表示
↩ :シングル再生に戻る

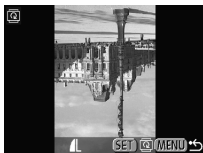
テレビで動画を再生するときは、音声も再生できます。(p.115)

- コンピューターで動画を再生するとき、コンピューターの性能によっては、画像がコマ落ちしたり、音声が途切れる場合があります。
- 他のカメラで撮影した動画などは、再生できない場合があります。(「メッセージ一覧」(p.128))

回転して表示する

時計方向に90度、270度に回転して表示します。

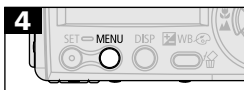
元画像

90度

270度

1

[(再生)] メニューから を選びます。

・メニューの選択と設定のしかた（p.39）

・**SET**ボタンを押すごとに、90度→270度→元画像を表示します。

・再生画面に戻るまで、**MENU**ボタンを押して操作を終了します。

- 動画は回転できません。
- カメラで回転した画像をコンピューターに取り込む場合、取り込みに使用するソフトウェアによっては回転結果が反映されないことがあります。

縦横自動回転の設定（p.74）が［入］のとき、縦位置で撮影した画像をカメラの液晶モニターに表示すると、画像は自動的に縦位置に回転して表示されます。

画像を自動再生する（スライドショー） ▶

スライドショーを始める

CFカード内の全画像または選択した画像を自動再生します。
スライドショーの画像指定はDPOF（Digital Print Order Format）に準拠しています。（p.92）

全画像	CFカード内のすべての画像を順に再生します。
ショー1～ショー3	各ショーでマークされている画像を順に再生します。

1

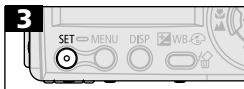
[▶（再生）] メニューから を選びます。

・ メニューの選択と設定のしかた （p.39）

2

・ スライドショーメニューが表示されます。

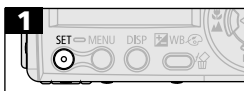
・ ▲▼ ボタンで［スライド］を選び、◀▶ボタンで、［全画像］、［ショー1］～［ショー3］のいずれかを選びます。
・ ▲▼ボタンで［スタート］を選びます。

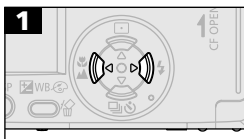
3

・ スライドショーが開始され、再生後、自動的にスライドショーが終了します。

4

・ 再生画面に戻るまで、**MENU**ボタンを押して操作を終了します。

● 動画は、設定した再生間隔にかかわらず、記録した時間で再生されます。
● スライドショーで自動再生中は、節電機能は働きません。（p.29）

●スライドショーの一時停止/再開

・**SET**ボタンを押すとスライドショーを一時停止します。再度**SET**ボタンを押すと再開します。

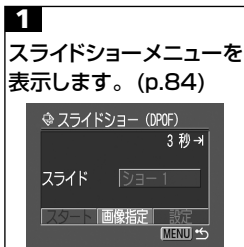
●画像の送り/戻し

・◀▶ボタンで前または次の画像を表示できます。ボタンを押し続けると早く進みます。

●スライドショーの中止

・**MENU**ボタンを押すと、スライドショーが中止され、スライドショーメニューが表示されます。

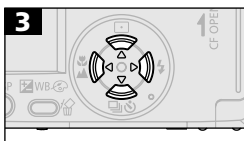
再生する画像を選ぶ

スライドショーで再生したい画像だけをマークし、[ショー１]から[ショー3]に保存します。最大998画像まで指定でき、選択した順番に自動再生されます。

1

スライドショーメニューを表示します。**(p.84)**

・▲▼ボタンで[スライド]を選び、◀▶ボタンで、[ショー1]～[ショー3]のいずれかを選びます。

・▼ボタンと◀▶ボタンで[画像指定]を選びます。

・すでに画像指定されているショーには、白いチェックマークが表示されています。

・◀▶ボタンで画像を選び、▲▼ボタンで選択または選択を解除します。選択した画像には、選択順の番号と白いチェックマークが表示されます。

選択順の番号

・ズームレバーを▦側に押して、インデックス再生（3画像表示）に切り換えても、同じ方法で選択できます。

・インデックス再生時に、**SET**ボタンを押して、▲▼ボタンで［全指定解除］を選び、もう一度**SET**ボタンを押すと、すべての選択を解除できます。

・再生画面に戻るまで、**MENU**ボタンを押して操作を終了します。

再生間隔やリピート設定をする

再生間隔やリピート設定をします。

再生間隔	スライドショーで1画像を表示する時間を指定します。3～10秒、15秒、30秒、手動を指定できます。
リピート	スライドショーが一巡したら終了するか、繰り返し再生するかを設定します。

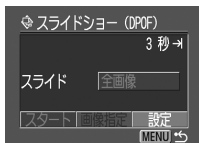
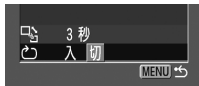
1

スライドショーメニューを表示します。**（p.84）**

・◀▶ボタンで［設定］を選びます。

2

・▲▼ボタンで再生間隔、またはリピートを選び、◀▶ボタンで設定したい内容を選びます。

再生間隔のとき

再生時間を選びます。

リピートのとき

［入］または［切］を選びます。

3

・再生画面に戻るまで、**MENU**ボタンを押して操作を終了します。

- 画像によっては、設定した時間と多少異なる再生間隔で再生されることがあります。
- 同梱されているソフトウェアを使用すると、スライドショーの編集が簡単に行えます。

画像をプロテクトする

大切な画像を誤って消去しないように、プロテクトを設定できます。

1
[▶（再生）] メニューから
O-π を選びます。

・メニューの選択と設定のしかた （p.39）

・◀▶ボタンでプロテクトしたい画像を選び、**SET**ボタンを押します。
・**SET**ボタンを押すと、プロテクトが設定されます。再度、**SET**ボタンを押すと、プロテクトを解除できます。
・ズームレバーを▦側、Q側に押してシングル再生とインデックス再生を切り換えて指定できます。

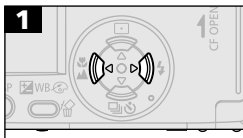
プロテクトマーク

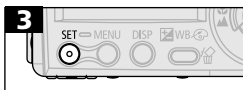
・再生画面に戻るまで、**MENU**ボタンを押して操作を終了します。

CFカードを初期化すると、プロテクトした画像も消去されます。ご注意ください。

消去

1画像ずつ消去する

- 消去した画像は復元できません。十分に確認してから消去してください。
- プロテクトされている画像は消去できません。

・ ◀▶ボタンで消去したい画像を選びます。

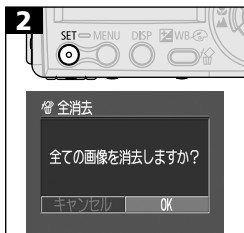
・ ◀▶ボタンで［消去］を選びます。
・ 消去を取り消すときは、［キャンセル］を選びます。

全画像を消去する

- 消去した画像は復元できません。十分に確認してから消去してください。
- プロテクトされている画像は消去できません。

1

[(再生)] メニューから を選びます。

・メニューの選択と設定のしかた (p.39)

2

・ボタンで [OK] を選びます。
・全消去を取り消すときは、[キャンセル] を選びます。

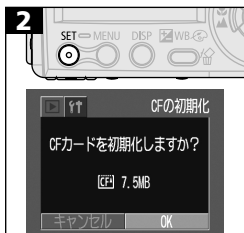
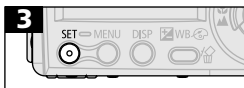
3

CFカードを初期化する

新しいCFカードをお使いになるときは、次の方法で初期化します。

初期化すると、CFカードに記録された画像（プロテクト画像も含む）だけでなく、すべてのデータが消去されますので、ご注意ください。

1 [（設定）] メニューから を選びます。

・メニューの選択と設定のしかた（p.39）

・ボタンで [OK] を選びます。
・初期化を取り消すときは、[キャンセル] を選びます。

- カメラが正しく動作しないときは、CFカードが壊れている可能性があります。初期化すると正しく動作する場合もあります。
- キヤノン製以外のCFカードで正しく動作しないときは、初期化すると正しくお使いになれることがあります。
- 他のカメラやコンピューター、周辺機器で初期化したCFカードを使用すると、正しく動作しない場合があります。その際は、このカメラで初期化してください。正しく初期化されないときは、電源を切ってから、CFカードを入れ直し、再度初期化してください。

プリント

プリントについて

このカメラをカメラダイレクト対応プリンター（別売）、またはカメラダイレクト対応BJプリンタ（別売）とケーブルで直接つなぎ、CFカード内の画像をカメラのボタン操作だけで簡単にプリントできます（ダイレクトプリント）。また、あらかじめカメラでプリントする画像や枚数などを設定（DPOF*プリント指定）しておけば、CFカードをラボプリントサービスにお持ちいただくだけで、指定どおりにプリントされるので、大変便利です。

*Digital Print Order Formatの略

デジタルカメラ

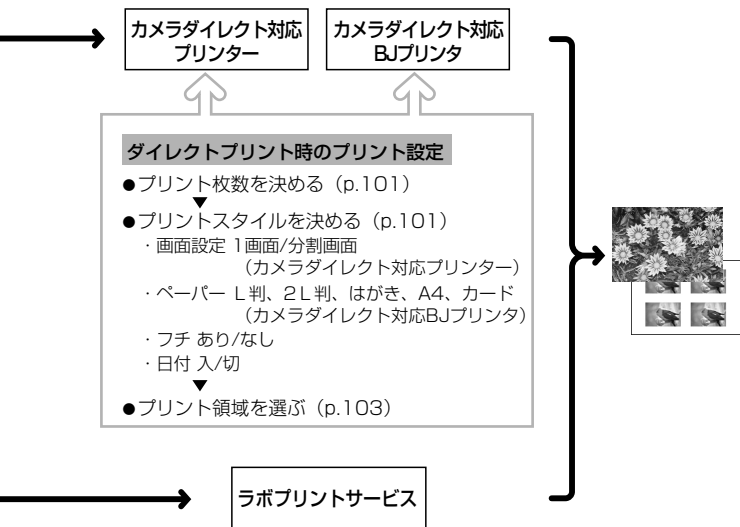
DPOFプリント指定

- プリントしたい画像を選ぶ（p.105）
- ▼
- プリント枚数を決める（p.106）
- ▼
- プリントスタイルを決める（p.108）
  - ・スタンダード/インデックス
  - ・日付 入/切
  - ・ファイル番号 入/切

DPOF送信指定

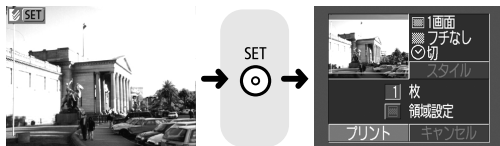
- メールなどで送りたい画像を決める（p.113）
  （※DPOF送信指定対応のソフトウェアが必要）

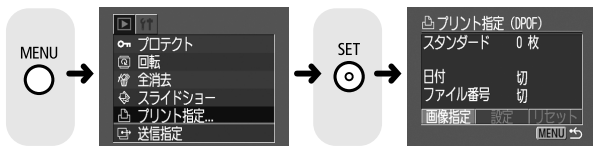
CFカード

このカメラで使えるカメラダイレクト対応プリンターについては、システムマップでご確認ください。（また、このカメラで使えるカメラダイレクト対応BJプリンタについては、カメラユーザーガイド裏表紙に記載されているホームページでご確認いただくか、キヤノン販売お客様ご相談センターにお問い合わせください。）

プリントメニューの選択と設定のしかた

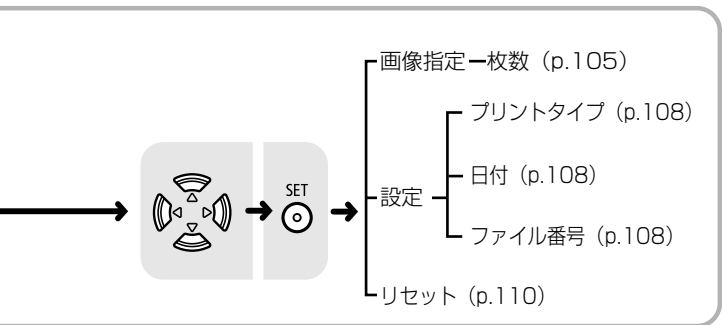
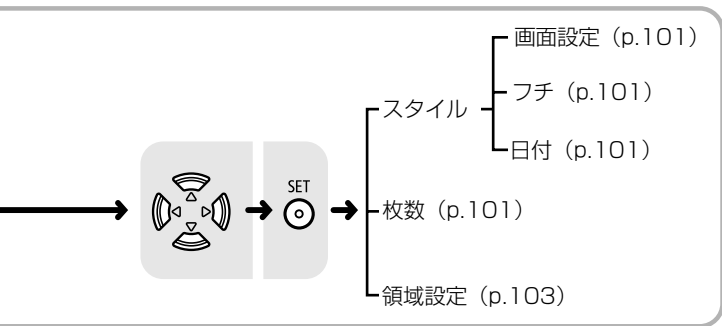
プリント関連の設定は、プリントメニューを使って操作します。
プリントメニューを使った操作は下図のように行います。

ダイレクトプリントの場合

モードダイヤルが ▶ の場合

DPOF設定の場合

モードダイヤルが ▶ の場合

MENU
メニューの表示/非表示を切り換えます。
項目、設定内容を選びます。
SET
項目、設定内容を確定します。

SET
スタイル
画面設定（p.101）
フチ（p.101）
日付（p.101）
枚数（p.101）
領域設定（p.103）

SET
画像指定
枚数（p.105）
設定
プリントタイプ（p.108）
日付（p.108）
ファイル番号（p.108）
リセット（p.110）

プリンターを接続する

カメラダイレクト対応プリンター（別売）とカメラを接続すると、簡単な操作で、きれいに、しかも素早くプリントできます。また、DPOFのプリント設定でプリントできます。

カメラを、カメラダイレクト対応プリンターまたはカメラダイレクト対応BJプリンタに接続します。

カメラをプリンターに接続する場合、カメラの電源には、家庭用電源をお使いになることをおすすめします。バッテリーをお使いになるときは、フル充電されたバッテリーをお使いください。プリントする際は、バッテリーの残量にご注意ください。

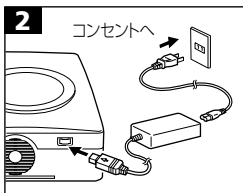
- このカメラで使えるカメラダイレクト対応プリンターは同梱のシステムマップでご確認ください。
- ペーパーやインクカセットの取り付け方は、プリンターの取扱説明書をご覧ください。

カメラダイレクト対応プリンターに接続する

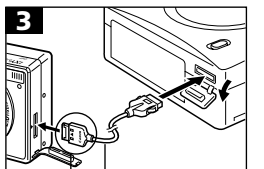
プリンターには、ダイレクトインターフェースケーブルが2本同梱されています。このカメラと接続するときは、コネクタに「▶」マークがついているケーブル（DIF-200）をお使いください。

1

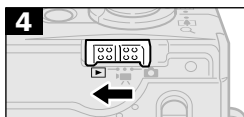
カメラの電源を切ります。（p.28）

2

・プリンターに電源ケーブルを接続し、電源プラグをコンセントに差し込みます。または、プリンター用の充電式バッテリーを取り付けます。

・充電式バッテリーがお使いになれるかどうかは、プリンターによって異なります。プリンターに同梱されているユーザーガイドもお読みください。

3

ダイレクトインターフェースケーブル(DIF-200)

カメラとケーブルの「▶」マークが合うように差し込みます。

・プリンターに、ダイレクトインターフェースケーブルを接続します。
・カメラの端子カバーを開き、ダイレクトインターフェースケーブルの端子を、DIGITAL・A/V OUT端子に差し込みます。(コネクターの「▶」マークが、カメラの前面側になるようにしてください。)

4

・モードスイッチを▶にして、カメラの電源を入れます。
・プリンターが正しく接続されると、が表示されます。

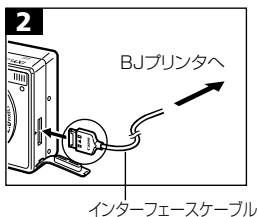
カメラダイレクト対応プリンター接続時

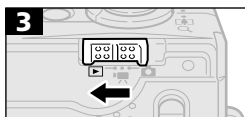
BJプリンタに接続する

お使いのBJプリンタがカメラダイレクトに対応しているかどうか、また接続ケーブルや、BJプリンタ全般に関することは、BJプリンタに同梱されている使用説明書も合わせてご覧ください。

1

カメラの電源を切ります。(p.28)

2

・BJプリンタに、インターフェースケーブルを接続します。
・カメラの端子カバーを開き、インターフェースケーブルの端子を、DIGITAL・A/V OUT端子に差し込みます。（コネクターの「Canon」が、カメラの前面になるようにしてください。）

3

・モードスイッチを▶にして、カメラの電源を入れます。
・プリンターが正しく接続されると、 が表示されます。

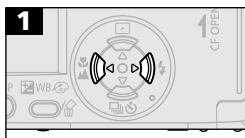
カメラダイレクト対応
BJプリンタ接続時

カメラのDIGITAL・A/V OUT端子からケーブルを取り外すときは、必ずコネクターの「PUSH」ボタンを押しながら、取り外してください。

- プリンターの接続時、次の操作はできません。
  - ・動画再生
  - ・**SET**ボタン＋**MENU**ボタンを使った言語の設定
- プリンターとの接続を解除すると、液晶モニター左上の 、または が消え、通常の再生モードになります。

プリントする

＊カメラダイレクト対応プリンター接続時の画面例を使用しています。BJプリンタ接続時は［スタイル］の一部が異なります。

シングル再生またはインデックス再生中の画像をプリントします。

・ ◀▶ボタンでプリントする画像を選びます。

・ 必要に応じてプリント枚数、プリントスタイル、プリント領域を設定します。
  ·プリント枚数を設定する（p.101）
  ·プリントスタイルを設定する（p.101）
  ·プリント領域を設定する（p.103）
・ ▲▼◀▶ボタンで［プリント］を選びます。
・ 操作を取り消すときは、［キャンセル］を選びます。

・ **SET**ボタンを押すと、プリントが開始されます。
・ プリントが正常に終了すると、再生画面に戻ります。

動画はプリントできません。

プリントを中止するとき

- プリント中にSETボタンを押します。確認の画面が表示されるので、◀▶ボタンで［OK］を選び、SETボタンを押します。

  ・カメラダイレクト対応プリンター
  プリント中の画像のプリントは中止できません。次のプリントから中止され、再生画面に戻ります。

  ・BJプリンタ
  プリントが中断され、プリント中のペーパーは排紙されます。

エラーが発生したとき

- プリント中、何らかのエラーが発生したときは、エラー画面が表示されます（p.130、132）。◀▶ボタンで［中止］または［再開］を選び、SETボタンを押します。（BJプリンタの場合、エラー内容を解決すると、自動的にプリントを再開します。）

  ・カメラダイレクト対応プリンター
  エラーの内容によっては、［再開］が表示されないこともあります。その場合は、［中止］を選びます。

  ・BJプリンタ
  ･エラーの内容によっては、［続行］と［中止］が表示されます。
  ･BJプリンタの操作パネルにエラー番号が表示されます。エラー番号に対応した対処方法については、BJプリンタの使用説明書をご覧ください。

プリントの設定をする（ダイレクトプリント時）

プリント枚数を設定する

・ ボタンで[枚]を選び、ボタンで枚数を設定します。最大99枚まで設定できます。

プリントスタイルを設定する

次の内容を設定できます。

カメラダイレクト対応プリンター

画面設定	1画面	ペーパー1枚に1画像をプリントします。
	分割画面*	ペーパー1枚に同一の画像を8画面プリントします。
フチ	フチなし	ペーパーいっぱいにプリントします。
	フチあり	フチを付けてプリントします。
日付		日付を入れてプリントします。

*カードサイズのペーパーにプリントするときのみ設定できます。

BJプリンタ

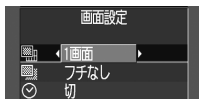
ペーパー		ペーパーサイズを、L判、2L判、はがき、A4、カードから選べます。使用できるペーパーについては、BJプリンタの使用説明書をご覧ください。
フチ	フチなし	ペーパーいっぱいにプリントします。
	フチあり	フチを付けてプリントします。
日付		日付を入れてプリントします。

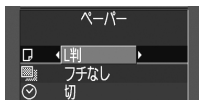
1

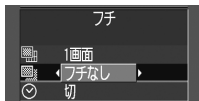
現在のプリントスタイル

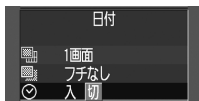
・ボタンで[スタイル]を選びます。

2

・ボタンで、、、のいずれかを選び、ボタンで設定したい内容を選びます。

（画面設定）のとき
（カメラダイレクト対応プリンター）

[1画面]または[分割画面]を選びます。

（ペーパー）のとき（BJプリンタ）

[L判]、[2L判]、[はがき]、[A4]、または[カード]を選びます。

（フチ）のとき

[フチなし]または[フチあり]を選びます。

（日付）のとき

[入]または[切]を選びます。

・MENUボタンを押して操作を終了します。
・[フチあり] プリントは、撮影した画像とほぼ同じ領域でプリントされます。
・[フチなし] または、[分割画面] を選ぶと、撮影した(液晶モニターに表示される)画像の中央部が大きくプリントされます。そのためプリントされる画像の上下、左右が多少カットされます。

DPOFのプリント指定でプリントする場合、日付は設定できません。日付はDPOFの設定でプリントされます。(p.108)
カメラダイレクト対応プリンターをお使いの場合、[分割画面] では、日付とフチは設定できません。(日付切、フチなしでプリントされます。)

プリント領域を設定する

プリントする範囲(領域)を、次の3種類の中から設定できます。

	上寄せ	画像の上側部分の領域をプリントします。
	中寄せ	画像の中央部分の領域をプリントします。
	下寄せ	画像の下側部分の領域をプリントします。

- プリント領域を設定する前に、プリントスタイル(画面設定、フチ、日付など)を設定してください。(p.101)
- フチなし、分割画面のときに設定できます。
- ペーパーサイズがL判のとき、またはプリントスタイルの画面設定が [分割画面] のときは、プリント領域が左右に動くことがあります。

・ボタンで［領域設定］を選び、ボタンで、、またはのいずれかを選びます。

- プリント領域は、1画像にのみ設定できます。
- プリント領域設定は、以下の操作を行うと解除されます。
  - プリントする
  - 他の画像にプリント領域を設定する
  - プリントモードを終了する（カメラの電源を切る、モードを変更する、プリント領域を設定したあとプリントせずに［キャンセル］を選ぶ、ダイレクトインターフェースケーブルを取り外す）

DPOFのプリント指定

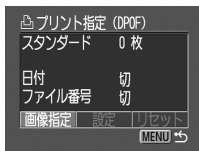
CFカードに記録されている画像の中から、プリントする画像や枚数をあらかじめカメラで指定できます。カメラダイレクト対応プリンターや、カメラダイレクト対応のBJプリンタに一括でプリントするときや、ラボプリントサービスに注文するときに大変便利です。

プリントする画像を選ぶ

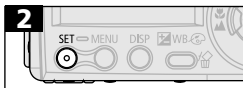
画像の指定には、次の2つの方法があります。

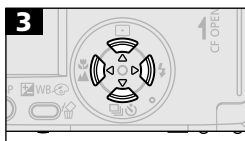
- 1画像ずつ指定する
- CFカード内のすべての画像を指定する（プリント枚数は各画像につき1枚です。）

1

プリント指定メニューを表示します。

· プリントメニューの選択と設定のしかた（p.94）

· ◀▶ボタンで［画像指定］を選びます。

2

●1画像ずつ指定するとき

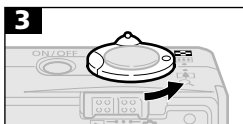
- **（プリントタイプ）の設定（p.108）によって指定方法が次のように異なります。**
- （スタンダード）/ （両方）
  ボタンで画像を選び、 ボタンでプリント枚数を指定します。（最大99枚まで）

プリント枚数表示

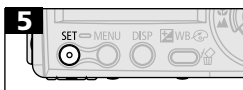
- （インデックス）
  ボタンで画像を選び、 ボタンで指定または指定を解除します。
  指定されると、チェックマークが付きます。

インデックス
プリントの選択

- ズームレバーを 側に押してインデックス再生（3画像表示）に切り換えても、同じ方法で指定できます。

- 再生画面に戻るまで、**MENU**ボタンを押して操作を終了します。

●CFカード内のすべての画像を指定するとき

・インデックス再生（3画像表示）に切り換えます。

・◁▷ボタンで［全画像指定］を選びます。
・［全指定解除］を選ぶと、すべての指定を解除できます。

・**SET**ボタンを押すと、すべての画像に対して1枚ずつプリント指定されます。
・プリントタイプが［スタンダード］/［両方］の場合、各画像のプリント枚数を変更できます。［インデックス］の場合は、プリント指定の解除ができます。（p.106）

・再生画面に戻るまで、**MENU**ボタンを押して操作を終了します。

● DPOF対応の他のカメラでプリント指定されたCFカードの場合、⚠が表示されます。このカメラでプリント指定を変更すると、設定済みのプリント指定は、すべて書き換えられます。
● プリンターまたはラボプリントサービスによっては、指定内容が反映されないことがあります。
● 動画はプリント指定できません。

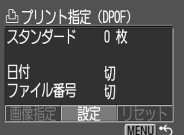
- 撮影日時の古い画像から順にプリントされます。
- 最大998画像まで指定できます。
- ［両方］の場合、プリント枚数は指定できますが、［インデックス］は指定できません。［インデックス］は1枚のみプリントされます。
- 同梱されているソフトウェアでもプリント指定ができます。

プリントスタイルを設定する

次の内容を設定できます。

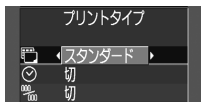
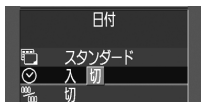
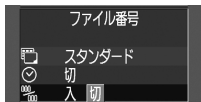
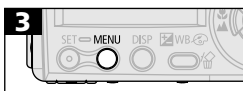
項目	設定	内容
プリントタイプ	スタンダード	ペーパー1枚に1画像をプリントします。
	インデックス	インデックス形式で画像を縮小してプリントします。
	両方	スタンダードとインデックスの両方をプリントします。
日付		日付を入れてプリントします。
ファイル番号		ファイル番号を入れてプリントします。

1

プリント指定メニューを表示します。

・プリントメニューの選択と設定のしかた（p.94）

・◀▶ボタンで［設定］を選びます。

2

・ボタンで、、のいずれかを選び、ボタンで設定したい内容を選びます。

（プリントタイプ）のとき
［スタンダード］、［インデックス］、［両方］のいずれかを選びます。

（日付）のとき
［入］または［切］を選びます。

（ファイル番号）のとき
［入］または［切］を選びます。

・再生画面に戻るまで、**MENU**ボタンを押して操作を終了します。

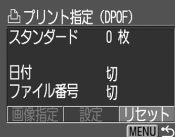
日付は、［日付/時刻］で設定した日付スタイルでプリントされます。（p.26）

プリントタイプが［インデックス］の場合、［日付］と［ファイル番号］を同時に設定することはできません。

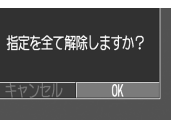
プリントの設定をリセットする

プリント指定された画像をすべて解除し、プリントタイプを［スタンダード］、日付を［切］、ファイル番号を［切］に戻します。

1

プリント指定メニューを表示します。

・プリントメニューの選択と設定のしかた（p.94）

・◀▶ボタンで［リセット］を選びます。

2

・◀▶ボタンで［OK］を選びます。

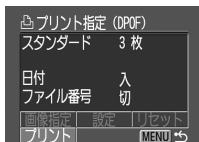
・操作を取り消すときは、［キャンセル］を選びます。

3

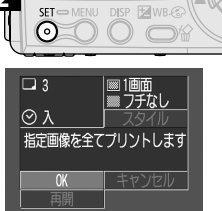
DPOFのプリント指定でプリントする

DPOFのプリント指定内容を、カメラダイレクト対応プリンター、またはカメラダイレクト対応のBJプリンタでプリントできます。

1

プリント指定メニューを表示します。

・プリントメニューの選択と設定のしかた（p.94）

・▲▼◀▶ボタンで［プリント］を選びます。

2

・必要に応じてプリントスタイルを設定します。（p.108）

・DPOFのプリント指定で、プリントタイプに［インデックス］を選択している画像では、プリントスタイルは設定できません。（BJプリンタでは、ペーパーの種類を設定できます。）

・▲▼◀▶ボタンで［OK］を選びます。

3

・**SET**ボタンを押すと、プリントが開始されます。

・プリントが正常に終了すると、再生画面に戻ります。

- 日付をプリントする場合は、手順1の［設定］で［日付］を［入］にします。手順2のスタイルでは、［日付］の設定はできません。なお、プリントタイプが［インデックス］の場合、手順1で［日付］を［入］に設定しても、日付はプリントされません。
- プリントタイプで［両方］を設定すると、カメラ上では、［日付］、［ファイル番号］ともに［入］の設定ができます。ただし、この場合、［インデックス］プリントには、［ファイル番号］のみプリントされます。
- プリントタイプが［スタンダード］の場合、ファイル番号を［入］にしてもファイル番号はプリントされません。

- プリントタイプが［インデックス］の場合、ペーパー1枚にプリントされる画像数は、ペーパーによって異なります。
  ・カードサイズ　：20画像
  ・L判　　　　　：42画像
  ・はがき　　　　：63画像
  （BJプリンタでプリントしたときの画像数については、BJプリンタの使用説明書でご確認ください。）

プリントを中止するとき （p.100）

プリントを再開するとき

- プリント指定メニューで◀▶ボタンで［再開］を選び、**SET**ボタンを押します。残りの画像をプリントできます。

  次のような場合は、プリントの再開はできません。
  ・再開する前に、プリント指定を変更した場合
  ・再開する前に、プリント指定した画像を削除した場合
  ・プリントを中断したときに、CFカードの空き容量が少なかった場合
  このような場合は、プリント画面で［OK］を選択すると、1枚目から再プリントできます。
  バッテリーの容量がなくなって中断した場合は、家庭用電源をお使いになることをおすすめします。バッテリーをお使いになるときは、フル充電されたバッテリーをお使いください。その上で、再度、カメラの電源を入れてください。

エラーが発生したとき （p.100）

画像の送信指定（DPOF送信指定）

電子メールで送信する画像などを、あらかじめカメラ側で指定しておくことができます。（実際に画像を送信するときは、付属のソフトウェアをご使用ください。）

この指定は、DPOF（Digital Print Order Format）に準拠しています。

DPOF対応の他のカメラでプリント指定されたCFカードの場合、▲が表示されます。このカメラでプリント指定を変更すると、設定済みのプリント指定は、すべて書き換えられます。

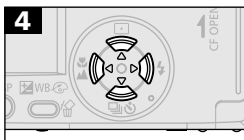
送信する画像を選ぶ

1

[▶（再生）] メニューから送信指定を選びます。

・メニューの選択と設定のしかた （p.39）

・送信指定メニューが表示されます。

・◀▶ボタンで [画像指定] を選びます。
・[リセット] を選ぶと、送信指定された画像をすべて解除します。

・ボタンで画像を選び、ボタンで指定または指定を解除します。指定されると、チェックマークが付きます。

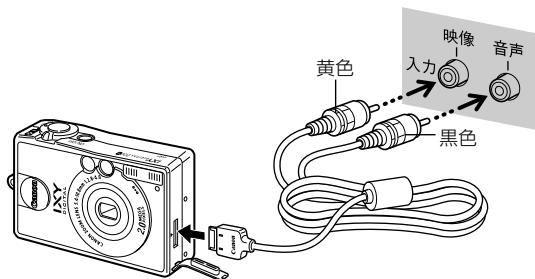
送信画像の選択

・ズームレバーを側に押してインデックス再生（3画像表示）に切り換えても、同じ方法で指定できます。
・インデックス再生時に、SETボタンを押して、ボタンで［全画像指定］を選び、もう一度SETボタンを押すと、すべての選択を選択できます。

・送信指定が終了し、送信指定メニューに戻ります。

- 撮影日時の古い画像から順に送信されます。
- 最大998画像まで指定できます。
- 同梱されているソフトウェアでも送信指定ができます。

テレビを使って撮影/再生する

同梱のAVケーブルAVC-DC200をお使いいただくと、テレビをモニターにして撮影や再生ができます。AVケーブルを接続したり、取り外したりするときは、必ずカメラとテレビの電源を切ってください。

- 接続後、テレビの電源を入れて入力切り換えをビデオ入力にします。
- モードスイッチを 、 、または にスライドし、カメラの電源を入れます。通常の撮影や再生ができます。
- 撮影時、テレビに画像が表示されていないときは、**DISP**ボタンを押して表示します。

- では使用できません。
- テレビ表示中は、液晶モニターに画像は表示されません。
- AVケーブルをステレオ対応のテレビに接続する場合は、音声入力端子の左右どちらかに接続してください。詳しくは、お使いのテレビの取扱説明書でご確認ください。

ビデオ出力方式は、初期状態では、日本国内で採用しているNTSC方式に設定されていますが、海外の別方式（PAL方式:主にヨーロッパ、オセアニア、アジア（一部地域を除く））に切り換えることができます。海外に旅行したときなどは、切り換えてお使いください。（p.126）

コンピューターへの画像の取り込み

カメラで撮影した画像をコンピューターに取り込む方法は次のとおりです。

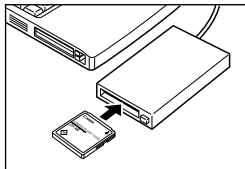
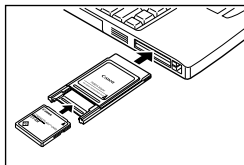
- **CFカードから直接画像を取り込む**
- **カメラとコンピューターをUSBケーブルで接続する**

  あらかじめ同梱のソフトウェアをインストールしておくと、同梱のUSBケーブルでカメラとコンピューターをつないだだけで、画像を取り込めます。

  画像の取り込み方法、コンピューターに必要なシステム構成は、ソフトウェアクイックガイドでご確認ください。

CFカードから直接画像を取り込む

ノートPC、PCカードリーダーまたはCFカードリーダーをお使いの場合は、CFカードから直接コンピューターへ画像を取り込めます。

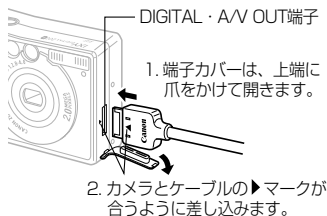
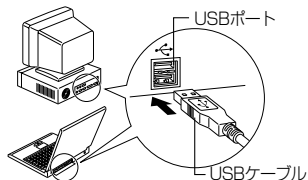
1 カメラからCFカードを取り出し、コンピューターに接続されたCFカードリーダーに入れます。

PCカードリーダーをお使いの場合は、まずCFカードをPCカードアダプター（別売）に差し込んでから、PCカードリーダーに入れてください。

2 CFカードを接続したドライブをダブルクリックして開きます。

3 撮影した画像をハードディスクの任意の場所にコピーします。

画像は、CFカード内の［DCIM］フォルダの中の［xxxCANON］フォルダ（xxxは100～998の数字が入ります）にあります。

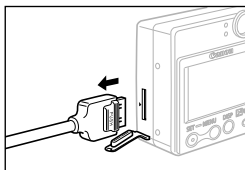
CFカードやPCカードアダプターを入れるとき、コンピューターの電源を切るか、入れたままでよいかは、コンピューターやカードリーダーによって異なります。お使いの製品の取扱説明書でご確認ください。

カメラとコンピューターをUSBケーブルで接続する

1 同梱のUSBケーブルで、コンピューターのUSBポートとカメラのDIGITAL・A/V OUT端子を接続します。

- カメラやコンピューターの電源を切る必要はありません。
- USBポートの位置は、お使いのコンピューターの取扱説明書で確認してください。

2 カメラのモードスイッチを▶にします。

再生画面が表示され、コンピューターへの接続が完了すると、液晶モニターは消えます。

カメラのDIGITAL･A/V OUT端子からUSBケーブルを取り外すときは、必ず、コネクターの「PUSH」ボタンを押しながら取り外してください。

- カメラをコンピューターに接続する場合、カメラの電源には、別売の家庭用電源（ACアダプターキット ACK500）をお使いになることをおすすめします。（p.134）
- カメラの電源が入っている状態で、USBケーブルを取り外すと、カメラの電源は切れます。
- コンピューターと接続しているときに、約5分間、何も操作しないと、コンピューター画面に警告メッセージが表示されます。さらに1分間何も操作しないと、カメラの電源が切れます（ただし、節電機能［切］のときを除く）。その場合は、再度メインスイッチを押すと、電源が入ります。

この後の操作については、ソフトウェアクイックガイドをご覧ください。

Canon Image Gatewayを活用する

このカメラをお買い求めになられた皆様には、オンラインフォトサービス「Canon Image Gateway」から、以下のサービスをご利用いただけます。サービスを利用するときは、まず会員登録（オンライン登録:無料）が必要です。登録方法については、ソフトウェアクイックガイドをご覧ください。

* インターネットに接続できる環境（プロバイダとの契約やブラウザソフトのインストール、各種回線接続が完了済み）が必要です。
* プロバイダとの接続料金およびプロバイダのアクセスポイントへの電話料金は別途かかります。

Canon Image Gatewayに接続してできること

オンラインアルバムサービス

画像をCanon Image Gatewayにアップロードし、ネット上にオリジナルアルバムを作成できます。また、画像に付けたコメントや音声も同時にアップロードできますので、個性的なアルバムを作れます。

アップロードした画像は、多彩なレイアウト機能などにより、自分だけのオリジナルアルバムを楽しめます。また、アルバムは、知人（お友達やご家族）にも公開できますので、楽しみ方も倍増です。

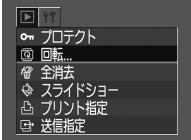
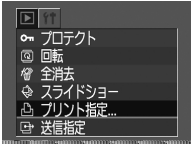
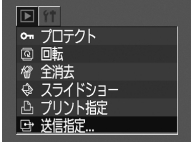
*上の画面はWindows用です。ただし、最新の画面表示と異なる場合があります。

オンラインプリントサービス

オンラインで、アルバムの画像を指定して、高画質プリントサービスに、簡単にプリントを注文できます。また、アルバムを見たお友達やご家族の人たちも注文できます。

メニュー・メッセージ一覧

各メニューの設定項目や内容は、次のとおりです。操作方法については、「メニューの選択と設定のしかた（p.39）」をご覧ください。

撮影メニュー

＊ 初期設定

項目・画面	内　容	参照先
記録画素数（静止画）	撮影した画像をCFカードに記録するときの記録画素数を設定します。 ・L（ラージ）＊ 1600 ×1200画素 ・M（ミドル） 1024 × 768画素 ・S（スモール） 640 × 480画素	p.47
記録画素数（動画）	撮影した動画をCFカードに記録するときの記録画素数を設定します。 ・640　640 × 480画素 ・320　320 × 240画素＊ ・160　160 × 120画素	p.47
圧縮率	撮影した画像をCFカードに記録するときの圧縮率を設定します。 ・スーパーファイン ・ファイン＊ ・ノーマル	p.47
ISO感度	撮影感度を設定します。 ・50＊ ・100 ・200 ・400 ・AUTO	p.73

項目・画面	内　容	参照先
AiAF	AF枠をカメラが自動的に選択して撮影するか、あらかじめ中央のAF枠に固定して撮影するかを設定します。 ・入* ・切	p.64
デジタルズーム	光学ズームと合わせて、拡大するかどうかを設定します。 ・入 ・切*	p.52
セルフタイマー	セルフタイマーの時間を設定します。 ・10秒* ・2秒	p.55
撮影の確認	撮影してシャッターボタンを離したあと、撮影した画像を液晶モニターに表示する時間を設定します。 ・切 ・2秒* ・10秒	p.46
AF補助光	AF補助光の入/切を設定します。 ・入* ・切	p.37

項目・画面	内　容	参照先
番号リセット機能	ファイル番号の付け方を設定します。 ・入 ・切*	p.75
縦横自動回転	縦位置で撮影した画像を、自動的に横に回転して表示するかどうかを設定します。 ・入* ・切	p.74
長秒時撮影	遅いシャッタースピードを設定します。 ・入 ・切*	p.67

再生メニュー

項目・画面	内　容	参照先
プロテクト	消去できないようプロテクトを設定します。	p.88
回転	時計方向に90度、270度に回転して表示します。	p.83
全消去	CFカードに記録されている画像をすべて消去します。（プロテクトされている画像を除く）	p.90
スライドショー	記録した画像を自動再生します。	p.84

項目・画面	内　容	参照先
プリント指定 プロテクト 回転 全消去 スライドショー プリント指定... 送信指定	画像をカメラダイレクト対応プリンターまたはラボプリントサービスでプリントするとき、プリントする画像の選択や枚数を指定します。	p.105
送信指定 プロテクト 回転 全消去 スライドショー プリント指定 送信指定...	お使いのメールソフトで送信する画像を、あらかじめカメラで指定します。	p.113

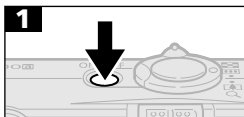
設定メニュー

* 初期設定

項目・画面	内　容	参照先
電子音 電子音 入 切 入 '02.05.05 10:15 CF 7.5MB 日本語 NTSC	シャッターボタンを押したときや、メニュー操作をしたときに、電子音を鳴らすかどうかを設定します。 ・入* ・切 ただし、エラー時の警告音は、［切］にしても鳴ります。	p.36
節電 節電 入 入 切 '02.05.05 10:15 CF 7.5MB 日本語 NTSC	一定時間カメラの操作をしないときに、自動的に電源を切るかどうかを設定します。 ・入* ・切	p.29
日付/時刻 日付/時刻 入 入 '02.05.05 10:15 CF 7.5MB 日本語 NTSC	日付、時刻、日付スタイルを設定します。	p.26
CFの初期化 CFの初期化 入 入 '02.05.05 10:15 CF 7.5MB 日本語 NTSC	CFカードを初期化します。	p.91

項目・画面	内　容	参照先
言語 言語 入 入 '02. 05. 05 10:15 CF 7. 5MB 日本語 NTSC	液晶モニターのメニューやメッセージを、どの言語で表示するかを設定します。 ・English　・Italiano ・Deutsch　・Norsk ・Français　・Svenska ・Nederlands　・Español ・Dansk　・汉语 ・Suomi　・日本語* 画像の再生時に、**SET** ボタンを押しながら **MENU** ボタンを押しても、表示する言語を変更できます。	p.27
ビデオ出力方式 ビデオ出力方式 入 入 '02. 05. 05 10:15 CF 7. 5MB 日本語 NTSC PAL	ビデオ出力方式を設定します。 ・NTSC* ・PAL	p.115

すべての設定を初期状態に戻す

[日付/時刻]、[言語]、[ビデオ出力方式]以外のメニュー設定と、ボタン操作によるカメラの設定をすべて初期設定に戻します。

・緑色のパワーランプが点灯するまで、メインスイッチを押します。
・モードスイッチの位置は、どちらでも構いません。

・**MENU**ボタンを5秒以上押し続けます。

・◀▶ボタンで[OK]を選びます。
・初期化を取り消すときは、[キャンセル]を選びます。

マニュアルホワイトバランスで記憶した白データは、初期設定に戻りません。(p.70)

メッセージ一覧

撮影・再生中に表示されるメッセージ

撮影または再生中に液晶モニターに表示されるメッセージには以下のものがあります。

メッセージ	内容
処理中 ...	撮影した画像を CF カードに記録しています。再生モードを起動中です。
CF カードがありません	CF カードがカメラに入っていないときに撮影または再生しようとしました。
記録できません	CF カードがカメラに入っていないのに撮影しようとしました。
CF カードが異常です	CF カードに異常があります。
CF カードがいっぱいです	CF カードの容量いっぱいに画像が記録されていて、これ以上画像を記録できません。または、これ以上プリント指定を保存できません。
ファイル名が作成できません	カメラが作成しようとするディレクトリと同じ名前のファイルが存在する、もしくは、すでにファイル番号が最大値になってしまったために、ファイル名を作成できません。撮影メニューで［番号のリセット機能］を［入］に設定してください。必要な画像をコンピューターに取り込んだ後、CF カードを初期化してください。なお、初期化すると、CFカード内の画像およびデータはすべて消去されます。
バッテリーを交換してください	バッテリーの残量が少なく、カメラが動作不能です。ただちに充電されたバッテリーに交換するか、バッテリーを充電してください。
画像がありません	CF カードに画像が記録されていません。

画像が大きすぎます	：3200×2400画素より大きなサイズの画像、または別のカメラで撮影した動画を再生しようとしました。
互換性のない JPEG です	：互換性のないJPEGフォーマットの画像を再生しようとしました。
データが壊れています	：データが破壊されている画像を再生しようとしました。
RAW	：RAW 形式で記録された画像を再生しようとしました。
認識できない画像です	：特殊なフォーマット（他社カメラ特有の記録フォーマットなど）で撮影した画像、または別のカメラで撮影した動画を再生しようとしました。
拡大できない画像です	：別のカメラもしくは異なるフォーマットで撮影した画像、またはいったんコンピューターに取り込んで加工した画像を拡大しようとしました。
回転できない画像です	：別のカメラもしくは異なるフォーマットで撮影した画像、またはいったんコンピューターに取り込んで加工した画像を回転させようとしました。
プロテクトされています	：プロテクトされている画像を消去しようとしました。
指定が多すぎます	：プリント指定、送信指定、スライドショーの画像指定が多すぎます。これ以上指定できません。
指定できない画像です	：JPEG 以外のファイルをプリント指定しようとしました。
Exx	：カメラに異常が発生しました。いったん電源を入れ直して、再び撮影または再生してください。頻繁に、このエラーコードが表示されるときは、故障ですので「xx」の数値を控えてサービスセンターへお持ちください。また、撮影直後にこのエラーコードが表示されたときは、撮影されていない場合がありますので、再生モードに切り換えてご確認ください。

カメラダイレクト対応プリンターでプリント中に表示されるメッセージ

別売のカメラダイレクト対応プリンターでプリント中に、カメラの液晶モニターに表示されるメッセージには、以下のものがあります。（プリンターによって、表示されないメッセージもあります。）

メッセージ	説明
ペーパーがありません	：ペーパーカセットが正しく入っていないか、ペーパーカセット内にペーパーがありません。
インクがありません	：インクカセットが入っていません。またはインクカセットのインクがありません。
指定外のペーパーです	：このカメラでプリントできないサイズのペーパーがプリンターに取り付けられました。
指定外のインクです	：このカメラでプリントできない種類のインクカセットがプリンターに取り付けられました。
インクカセットが異常です	：インクカセットに異常があります。
ペーパーとインクが不一致です	：ペーパーのサイズとインクの種類が異なります。
ペーパーが詰まりました	：プリント中にペーパーが詰まりました。
ペーパーが変更されています	：プリントスタイルメニュー表示時からプリントを開始するまでの間にペーパーのサイズが変わりました。
インクが変更されています	：プリントスタイルメニュー表示時からプリントを開始するまでの間にインクの種類が変わりました。
プリンターバッテリー切れです	：プリンターの電池がありません。
通信エラー	：通信中にエラーが発生しました。

プリントできない画像です	:別のカメラ、もしくは異なるフォーマットで撮影した画像、またはコンピューターに取り込んで加工した画像をプリントしようとしました。
プリントできない画像がXX枚ありました	:別のカメラ、もしくは異なるフォーマットで撮影した画像、またはコンピューターに取り込んで加工した画像をXX枚DPOF設定でプリントしようとしました。

カメラダイレクト対応BJプリンタ接続中に表示されるメッセージ

カメラダイレクト対応BJプリンタに接続しているときは、以下のメッセージが表示されることがあります。

BJプリンタに表示されるエラー番号を確認し、BJプリンタの使用説明書も合わせてご覧ください。

プリンターは使用中です	：コンピューター、またはプリンターに差し込まれたメモリーカードからプリントしています。プリントが終了すると自動的に、カメラ内の画像のプリントを開始します。
プリンターは準備中です	：プリンターを準備しています。準備が終了すると、自動的にプリントを開始します。
プリントヘッド未装着	：プリントヘッドが取り付けられていません。
プリンターカバーが開いています	：プリンターカバーを閉じてください。
ペーパーの種類が違います	：プリンターで使用できないペーパーを選んでいます。プリントスタイルで、使用できるペーパーを選んでください。
紙間レバー位置が不正です	：紙間選択レバー位置を正しい位置にしてください。
インクが残りわずかです	：そろそろインクタンクの交換時期です。新しいインクタンクをご用意ください。エラー画面で［続行］を選ぶと、プリントを再開します。
廃インクタンクが満杯です	：BJ プリンタのリセットボタンを押すとプリントを再開しますが、お早めにお買い上げの販売店または修理受付窓口（BJ プリンタに付属の一覧を参照）に廃インクタンクの交換を依頼してください。

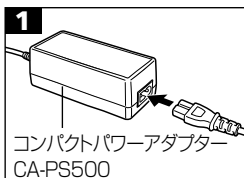
プリンタートラブル発生	：プリンターの電源を入れ直してください。それでもエラーが表示されるときは、BJ プリンタの使用説明書に記載されている最寄りのサービスセンターにご相談ください。

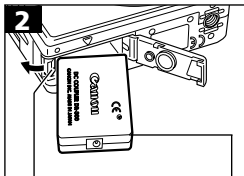
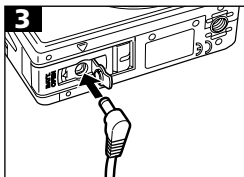
付録

家庭用電源（別売）を使う

カメラを連続して長時間お使いになるときや、コンピューターと接続するときは、ACアダプターキット ACK500（別売）の利用をおすすめします。

カメラの電源を切って、コンパクトパワーアダプターの取り付けや取り外しを行ってください。

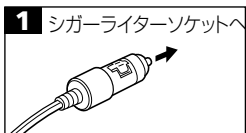
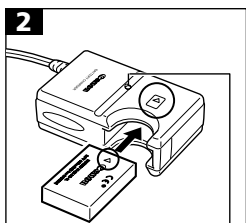
コンパクトパワーアダプター
CA-PS500

・コンパクトパワーアダプターに電源ケーブルを接続し、電源プラグをコンセントに差し込みます。

バッテリーロック　DCカプラー DR-500

・バッテリーカバーを開き、バッテリーロックを矢印の方向に押しながらDCカプラーDR-500をロックされるまで押し込み、バッテリーカバーを倒して元の位置に戻します。

・DCカプラー端子カバーを開き、DC端子を接続します。
・使用後は、電源プラグをコンセントから抜いてください。

ACアダプターキット ACK500（別売）以外の電源キットをお使いになると、カメラやACアダプターキットの故障の原因となることがあります。

カーバッテリーチャージャー（別売）を使う

別売のカーバッテリーチャージャー CBC-NB1をお使いになると、自動車のシガーライターソケットから電源を取って、バッテリーを充電できます。

カーバッテリーチャージャーをお使いになるときは、必ず自動車のエンジンをかけた状態にしてください。エンジンをかけないで使用すると、車種によっては、電力を消耗する事があり、バッテリーあがりの原因となります。また、取り外すときも、必ず自動車のエンジンをかけたまま行ってください。

・自動車のエンジンをかけた状態で、シガープラグを自動車のシガーライターソケットに接続します。

・バッテリーを図のように、カーバッテリーチャージャーの奥までしっかり押し込みます。
・バッテリーは、バッテリーの矢印とカーバッテリーチャージャーの矢印を合わせて正しく入れてください。
・充電中はチャージインジケーターが赤色に点灯し、充電が完了すると緑色に点灯します。

・充電終了後、カーバッテリーチャージャーをシガーライターソケットから抜き、バッテリーを取り出します。

- エンジンを止めるときは、充電を中止し、シガープラグをシガーライターソケットから抜いてください。
- 充電を再開するときは、エンジンをかけてからシガープラグをシガーライターソケットに差し込んでください。
- このカーバッテリーチャージャーは、マイナス接地車専用です。プラス接地車ではお使いになれません。

カメラのお手入れ

カメラ本体やレンズ、ファインダー、液晶モニターなどが汚れたときは、次の方法でクリーニングしてください。

絶対にシンナーやベンジン、中性洗剤や水などを使ってクリーニングしないでください。部品の変形や故障の原因になることがあります。

カメラ本体

やわらかい布やメガネ拭きなどで汚れを拭き取ってください。

レンズ

市販のブロワーブラシでほこりやゴミを吹き払った後、やわらかい布で軽く拭き取ってください。

カメラ本体やレンズは、絶対に有機溶剤を含むクリーナーなどで拭かないでください。どうしても汚れが落ちないときは、最寄りのキヤノンサービスセンター（別紙の「修理サービスご相談窓口」をご参照ください）にご相談ください。

ファインダー、液晶モニター

市販のブロワーブラシでほこりやゴミを吹き払ってください。汚れがひどいときは、やわらかい布やメガネ拭きなどで軽くこすって汚れを落としてください。

絶対に液晶モニター表面を強くこすったり、強く押したりしないでください。液晶モニターの故障やトラブルの原因となります。

故障かなと思ったら

現　象	原　因	対　処
カメラが動作しない	電源が入っていません。	●メインスイッチをしばらく押してください。
	バッテリーカバーまたはCFカードスロットカバーが開いています。	●バッテリーカバーまたはCFカードスロットカバーがしっかりと閉じていることを確認してください。
	バッテリーの電圧が足りません。	●十分に充電したバッテリーをカメラに入れてください。 ●家庭用電源を使用してください。
	カメラとバッテリーの接触不良です。	●バッテリーの電極を乾いたきれいな布で拭いてください。
撮影ができない	モードスイッチを ▶（再生）に合わせています。	●モードスイッチを 📷 または 🎥 にしてください。
	ストロボが充電中です。	●充電が完了すると、インジケーターが橙色に点灯します。シャッターボタンを押してください。
	CFカードの空き容量がありません。	●新しいCFカードを入れてください。 ●必要であれば、カードに記録されている画像をコンピューターに取り込んでから画像を消去し、空き容量を増やしてください。
	CFカードが正しくフォーマットされていません。	●CFカードを初期化してください。 ➡「CFカードを初期化する（p.91）」参照 ●CFカードの論理フォーマットが壊れている可能性があります。キヤノンのお客様ご相談窓口にお問い合わせください。

現　象	原　因	対　処
レンズが出たままで収納されない	電源を入れたまま、バッテリーカバーまたはCFカードスロットカバーを開けようとしました。	●バッテリーカバーまたはCFカードスロットカバーを閉じた後、電源を切ってください。
	CFカードへの記録中に、バッテリーカバーまたはCFカードスロットカバーを開けようとしました。（警告音が鳴ります。）	●バッテリーカバーまたはCFカードスロットカバーを閉じた後、電源を切ってください。
バッテリーの消耗が早い	常温（23℃）で使用しているときに消耗が早い場合は、バッテリーの寿命です。	●新しいバッテリーと交換してください。
バッテリーが充電できない	バッテリーの寿命です。	●新しいバッテリーと交換してください。
	バッテリーとバッテリーチャージャーの接触不良です。	●バッテリーをバッテリーチャージャーにしっかりとセットしてください。 ●バッテリーチャージャーのコネクターを電源コンセントにしっかりと差し込んでください。
画像がぼやけている ピントがあまい	カメラが動いています。	●シャッターボタンを押すときに、カメラを動かさないように注意してください。
	AF補助光投光部が何かで覆われているため、オートフォーカスが機能していません。	●AF補助光投光部に、指などがかからないように注意してください。
	AF補助光の設定が［切］になっています。	●AF補助光の設定を［入］にしてください。（p.121）

現　象	原　因	対　処
画像がぼやけている ピントがあまい	被写体がピントの合う範囲からはずれています。	●被写体から57cm以上離してください。 ●被写体から27cm（ワイド端のとき10cm）～57cmの距離で撮影するときは、マクロモードで撮影してください。 ●遠くの被写体を撮影する場合は、遠景モードで撮影してください。
撮影した画像の被写体が暗すぎる	撮影時の光量が不足しています。	●ストロボをオンにしてください。
	被写体が周辺部に比べて暗すぎます。	●露出補正値をプラス側に設定してください。または、スポット測光をお使いください。
	被写体が遠すぎてストロボ光が届いていません。	●ストロボをお使いになるときは、カメラを被写体から3m（ワイド端）/2m（テレ端）以内に近づけてください。
撮影した画像の被写体が明るすぎる	被写体が近すぎて、ストロボ光が強すぎます。	●ストロボをお使いになるときは、カメラを被写体から27cm以上離してください。
	被写体が周辺部に比べて明るすぎます。	●露出補正値をマイナス側に設定してください。または、スポット測光をお使いください。
	照明が直接、もしくは被写体の表面で反射してカメラに入っています。	●被写体に対するカメラのアングルを変えてください。
	ストロボがオンになっています。	●ストロボをオフにしてください。

現　象	原　因	対　処
ストロボが発光しない	ストロボがオフになっています。	●ストロボをオンにしてください。
テレビに出力できない	お使いの地域のビデオ出力形式に合っていません。	●正しいビデオ出力形式（NTSCまたはPAL）に合わせてください。（p.126）
	で撮影しています。	●ではテレビに出力できません。他の撮影モードで撮影してください。
ズームの操作ができない	動画撮影中に、ズームレバーを押しました。	●動画を撮影する前にズーム操作をしてください。

主な仕様

すべてのデータは、当社測定条件によります。都合により記載内容を予告なしに変更することがあります。

IXY DIGITAL 200a

カメラ部有効画素数	：約 200 万画素
撮像素子	：1/2.7 型 CCD（総画素数 約 210 万画素 ）
レンズ	：5.4（W）－ 10.8（T）mm (35mm フィルム換算 35（W）－ 70（T）mm) F2.8（W）－ 4（T）
デジタルズーム	：最大2.5 倍（光学ズームと合わせて最大5 倍のズームが可能）
光学ファインダー	：1 次結像式実像光学ズームファインダー
液晶モニター	：1.5 型低温ポリシリコン TFT LCD 約 12 万画素
オートフォーカス	：TTL 3 点 AiAF/ TTL 中央 1 点 AF フォーカスロック可能
撮影距離	：通常撮影：57cm ～∞ マクロ撮影：10（W）/27（T）～ 57cm
シャッター	：メカニカルシャッター + 電子シャッター
シャッター速度	：15 ～ 1/1500 秒 • 1 ～ 1/6 秒は、マニュアルモードで、ストロボの設定が［スローシンクロ］または［ストロボオフ］時に設定可能 • 15 ～ 1 秒は、長秒時撮影時に設定可能 • 15 ～ 1.3 秒は、ノイズリダクション処理あり
測光方式	：評価測光（測距点に連動）/ スポット測光
露出制御方式	：プログラム AE
露出補正	：± 2 段（1/3 段ステップ）
感度	：ISO 50 / 100 / 200 / 400相当 / オート（オート時は、ISO 50 ～ 150 相当の間で自動設定）
ホワイトバランス	：ＴＴＬ オートホワイトバランス / プリセットホワイトバランス（太陽光 / くもり / 電球 / 蛍光灯 / 蛍光灯 H）マニュアルホワイトバランス
ストロボ	：赤目緩和オート / オート / オン / オフ / スローシンクロ

ストロボ連動範囲	：通常撮影：57cm～3.0m（W）/ 57cm～2.0m（T） マクロ撮影：27cm ～ 57cm（W/T）
撮影モード	：オート / マニュアル / スティッチアシスト / 動画
連続撮影	：約 2.5 画像 / 秒（ラージ / ファインモード、液晶モニター非表示のとき）
セルフタイマー	：約 10 秒、約 2 秒後に撮影
パソコン接続撮影	：USB 接続時、RemoteCapture（同梱のソフトウェア）で撮影可能
記録媒体	：コンパクトフラッシュカード (Type I)
画像ファイルフォーマット	：DCF *1 DPOF 対応
画像記録フォーマット	：静止画：JPEG（Exif 2.2）*2 動画：AVI（画像データ：Motion JPEG / 音声データ：WAVE（モノラル））
圧縮率	：スーパーファイン / ファイン / ノーマル
記録画素数	：静止画： ラージ ：1600 × 1200 画素 ミドル ：1024 × 768 画素 スモール： 640 × 480 画素 動画： 640 × 480 画素 （約 4 秒） 320 × 240 画素 （約 10 秒） 160 × 120 画素 （約 30 秒） 約 20 フレーム / 秒 （ ）内は 1 回の記録時間です。
再生モード	：シングル再生 / インデックス再生（サムネイル 9 画像）/ 拡大再生（液晶モニター上で最大約 10 倍に拡大可能）/ スライドショー / 専用プリンター (CP-100、CP-10)への画像出力、BJ プリンタへの画像出力（ダイレクトプリント）
表示言語	：English / Deutsch / Français / Nederlands / Dansk / Suomi / Italiano / Norsk / Svenska / Español / 汉语 / 日本語
Canon Image Gateway 対応機能	：同梱のソフトウェアを使って、Canon Image Gateway の会員登録、Canon Image Gateway への画像のアップロードが可能
インターフェース	：USB 映像 / 音声出力端子（NTSC または PAL 切り換え可能、モノラル音声）

電源	：専用充電式リチウムイオン電池 NB-1LH/NB-1L 専用コンパクトパワーアダプター CA-PS500 専用カーバッテリーチャージャー CBC-NB1
動作温度	：0 ～ 40 ℃
動作湿度	：10 ～ 90%
大きさ （幅×高さ×奥行き）	：87.0 × 57.0 × 26.7mm（突起部を除く）
質量	：約 180g （本体のみ）

（W）：ワイド端　（T）：テレ端

*1 DCFは（社）電子情報技術産業協会（JEITA）で、主としてDSC等の画像ファイル等を、関連機器間で簡便に利用しあえる環境を整えることを目的に標準化された規格「Design rule for Camera File system」の略称です。

*2 このデジタルカメラは、Exif 2.2（愛称「Exif Print」）に対応しています。Exif Printは、デジタルカメラとプリンターの連携を強化した規格です。Exif Print対応のプリンターと連携することで、撮影時のカメラ情報を活かし、それを最適化して、よりきれいなプリント出力結果を得ることができます。

バッテリー性能

バッテリーパック NB-1LH（フル充電）

撮影画像数	液晶モニター表示	約150画像
	液晶モニター非表示	約420画像
再生時間		約100分

* 動画データは除きます。
* 使用環境温度が下がると、バッテリーの性能が低下したり、バッテリーアイコンが早めに表示されることがあります。このような場合は、使用直前までポケットなどに入れて温めてから使用すると、バッテリーの性能が回復することがあります。

＜測定条件＞

撮影　：常温（23℃）、20秒間隔でワイド端とテレ端撮影を交互に繰り返し4回に1回ストロボ使用時、8回に1回電源を切/入操作

再生　：常温（23℃）、1画像あたり3秒間隔で連続再生

記録画像数（目安）

		FC-8M	FC-16M	FC-32M	FC-64M	FC-128M
L（1600×1200画素）	S	7	15	31	64	128
	◢	11	24	49	100	200
	▟	24	48	99	200	401
M（1024×768画素）	S	16	32	67	135	271
	◢	24	49	102	205	412
	▟	46	92	189	379	760
S（640×480画素）	S	35	70	143	288	577
	◢	50	99	206	415	831
	▟	87	172	353	707	1417
動画	640（640×480画素）	6秒	13秒	27秒	56秒	113秒
	320（320×240画素）	18秒	36秒	75秒	152秒	305秒
	160（160×120画素）	48秒	97秒	198秒	399秒	799秒

- 動画の1回の撮影時間は、640：約4秒、320：約10秒、160：約30秒です。表中の数値は、繰り返し撮影した場合の最大記録可能時間です。
- L（ラージ）、M（ミドル）、S（スモール）、640、320、160は記録画素数を表します。
- S（スーパーファイン）、◢（ファイン）、▟（ノーマル）は圧縮率を表します。

1画像の容量（目安）

記録画素数		圧縮率		
		S	◢	▟
L	（1600×1200）	957KB	611KB	302KB
M	（1024× 768）	450KB	294KB	155KB
S	（ 640× 480）	208KB	141KB	79KB
動画	640（ 640× 480）	900KB/秒		
	320（ 320× 240）	380KB/秒		
	160（ 160× 120）	130KB/秒		

コンパクトフラッシュカード

カードスロットタイプ	: Type I
外形寸法	: 36.4 × 42.8 × 3.3mm
質量	: 約 10g

バッテリーパック NB-1LH

形式	: 充電式リチウムイオン電池
公称電圧	: DC 3.7V
公称容量	: 840mAh
充放電	: 約 300 回
使用温度	: 0 ～ 40℃
大きさ	: 32.3 × 49.8 × 10.6mm
質量	: 約 29g

バッテリーチャージャー CB-2LS

定格入力	: AC100 ～ 240V（50/60Hz） 7.5VA（100V）～ 10.5VA（240V）
定格出力	: DC 4.2V/0.5A
充電時間	: 約 130 分 *
使用温度	: 0 ～ 40℃
大きさ	: 90.4 × 56.0 × 28.0mm
質量	: 約 78g

* バッテリーパックNB-1LHの充電時間

コンパクトパワーアダプター CA-PS500
（別売のACアダプターキット ACK500に同梱）

定格入力	: AC100 ～ 240V（50/60Hz） 16VA（100V）～ 26VA（240V）
定格出力	: DC 4.3V/1.5A
使用温度	: 0 ～ 40℃
大きさ	: 42.6 × 104.4 × 31.4mm
質量	: 約 180g

カーバッテリーチャージャー CBC-NB1（別売）

定格入力	: DC 12 － 24V　4.3W
定格出力	: DC 4.2V/0.55A
充電時間	: 約 130 分 *
使用温度	: 0 ～ 40℃
大きさ	: 90.4 × 56.0 × 28.0mm
質量	: 約 106g

* バッテリーパックNB-1LHの充電時間

索引

記号 / アルファベット

ア行

カ行

サ行

タ行

ハ行

マ行

ラ行

補修用性能部品について

保守サービスの為に必要な補修用性能部品の最低保有期間は、製品の製造打切り後7年間です。（補修用性能部品とは、その製品の機能を維持するために必要な部品です。）

この装置は、情報処理装置等電波障害自主規制協議会（VCCI）の基準に基づくクラスB情報技術装置です。この装置は、家庭環境で使用することを目的としていますが、この装置がラジオやテレビジョン受信機に近接して使用されると、受信障害を引き起こすことがあります。カメラユーザーガイド（本書）に従って正しい取り扱いをしてください。